

別添 5-2 環境影響予測評価



## 別添 5-2-1 調査結果

第 1 章 調査結果 .....	5-2-1
第 1 節 騒音・低周波音 .....	5-2-1
1. 騒音・低周波音 .....	5-2-1
第 2 節 振動 .....	5-2-10
1. 振動 .....	5-2-10
第 3 節 廃棄物・発生土 .....	5-2-16
1. 廃棄物 .....	5-2-16
2. 発生土 .....	5-2-18
第 4 節 植物・動物・生態系 .....	5-2-19
1. 植物 .....	5-2-19
2. 動物 .....	5-2-85
3. 生態系 .....	5-2-223
第 5 節 景観 .....	5-2-232
1. 景観 .....	5-2-232
第 6 節 レクリエーション資源 .....	5-2-267
1. レクリエーション資源 .....	5-2-267
第 7 節 安全 .....	5-2-274
1. 危険物等 .....	5-2-274



## 第1章 調査結果

### 第1節 騒音・低周波音

#### 1. 騒音・低周波音

##### (1) 地形及び地質の状況

###### ① 調査事項

調査事項は騒音及び低周波音の伝搬に係る地形、地表面、工作物の位置及び規模等の状況とした。

###### ② 調査方法

調査方法は、地形図等の既存資料により、実施区域とその周辺地域における地形、地表面、工作物の位置及び規模等の状況を把握した。

###### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

###### ④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

###### ⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の地形分類図は、「別添 3-2 第 2 章第 3 節地象」(p. 3-2-83) に示すとおりである。

実施区域のほとんどは大起伏丘陵地または小起伏山地に位置している。また、周辺地域には騒音及び低周波音の伝搬に影響を及ぼすような建築物や工作物はない。

## (2) 土地利用の状況

### ① 調査事項

調査事項は特に静穏の保持を要する施設等の状況、用途地域の指定状況及びその他の土地利用の状況とした。

### ② 調査方法

調査方法は、土地利用現況図等の既存資料により土地利用状況を把握した。

### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

### ④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

### ⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の静穏の保持を要する施設等の状況は「別添 3-2 第 1 章第 7 節 環境保全に留意を要する施設」(p. 3-2-19) に、用途地域の指定状況は「別添 3-2 第 1 章第 4 節 土地利用」(p. 3-2-6) に示すとおりである。

実施区域は全て市街化調整区域に指定されている。

### (3) 騒音及び低周波音の発生源の状況

#### ① 調査事項

##### ア 既存資料調査

調査事項は実施区域周辺の工場、事業場及び道路、鉄道等の主な騒音及び低周波音の発生源の状況とした。

##### イ 現地調査

調査事項は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表 5.2-1 道路交通の状況における調査事項

項目	調査事項
道路交通の状況	自動車交通量、走行速度、道路構造

#### ② 調査方法

##### ア 既存資料調査

調査方法は、地形図、土地利用現況図等の既存資料により工場、事業場及び道路、鉄道等の主要な騒音の発生源の状況について把握した。

##### イ 現地調査

調査方法は、表 5.2-2 に示すとおりである。

表 5.2-2 道路交通の状況における調査方法

項目	調査方法
自動車交通量	通過台数をハンドカウンターにより時間別・方向別・車種別にカウントする方法（1 時間毎）とした。車種分類は 3 車種（大型車、小型車、二輪車）とした。
走行速度	大型車及び小型車を対象に、方向別に一定区間を走行する時間をストップウォッチにより計測し、走行速度を算出した。
道路構造	交通量の状況を計測する断面における道路の車道、路肩、歩道等の幅員について、メジャー等で計測した。

#### ③ 調査範囲及び地点

##### ア 既存資料調査

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

#### イ 現地調査

調査範囲及び地点は、表 5.2-3 に示すとおりである。

表 5.2-3 道路交通の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
自動車交通量	調査範囲及び地点は、図 5.2-2 に示す工事用車両の走行ルート上の 1 断面とした。
走行速度	
道路構造	

#### ④ 調査時期

##### ア 既存資料調査

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

#### イ 現地調査

調査時期は表 5.2-4 に示すとおりである。

表 5.2-4 騒音及び低周波音レベルの状況の現地調査時期

項目	調査日
道路交通の状況	令和 6 年 2 月 14 日 (水) 6:00~22:00

#### ⑤ 調査結果

##### ア 既存資料調査

実施区域及び周辺地域の土地利用現況図は、「別添 3-2 第 2 章第 4 節土地利用」(p. 3-2-6) に、実施区域及び周辺地域における主要な道路及び鉄道の状況は「別添 3-2 第 1 章第 5 節交通」(p. 3-2-10) に示すとおりである。

実施区域は山林、民間空地に位置しており、周辺地域に軽工業用地があるものの騒音の発生源となる工場、事業場はない。

主要な道路については、実施区域の東側に一般国道 16 号（横浜横須賀道路）が南北に通り、北側に逗子 IC 及び横須賀 IC、南側に衣笠 IC が位置している。また、東西方向の道路として、実施区域のほぼ中央に横須賀葉山線、南側に横須賀三崎線と三浦縦貫道路が通っている。

鉄道については、実施区域の北から東側にかけて、JR 東日本横須賀線及び京浜急行本線が通っている。鉄道駅は、横須賀線が東逗子、田浦、横須賀、衣笠の 4 駅が、京浜急行本線は、京急田浦、安針塚、逸見、汐入、横須賀中央の 5 駅が位置している。

#### イ 現地調査

##### (a) 自動車交通量

調査結果は、表 5.2-5 に示すとおりである。自動車交通量調査地点における大型車の走行台数は 822 台、小型車は 13,330 台で合計 14,152 台であった。また、二輪車の走行台数は 1,208 台であった。

表 5.2-5 自動車交通量調査結果

時間帯	至 木古庭駐在所前					至 不動橋				
	大型車 (台)	小型車 (台)	合計 (台)	二輪車 (台)	大型車 混入率 (%)	大型車 (台)	小型車 (台)	合計 (台)	二輪車 (台)	大型車 混入率 (%)
6:00-7:00	33	434	467	45	7.1	41	259	300	25	13.7
7:00-8:00	30	630	660	91	4.5	52	365	417	66	12.5
8:00-9:00	51	468	519	40	9.8	34	381	415	34	8.2
9:00-10:00	49	395	444	36	11.0	27	390	417	35	6.5
10:00-11:00	42	427	469	32	9.0	24	375	399	32	6.0
11:00-12:00	32	374	406	33	7.9	32	441	473	24	6.8
12:00-13:00	25	491	516	30	4.8	32	419	451	28	7.1
13:00-14:00	29	424	453	38	6.4	28	428	456	32	6.1
14:00-15:00	26	471	497	42	5.2	34	423	457	38	7.4
15:00-16:00	27	460	487	40	5.5	29	512	541	32	5.4
16:00-17:00	15	498	513	30	2.9	23	552	575	41	4.0
17:00-18:00	21	544	565	63	3.7	13	627	640	60	2.0
18:00-19:00	9	471	480	35	1.9	11	562	573	61	1.9
19:00-20:00	9	308	317	27	2.8	6	415	421	40	1.4
20:00-21:00	9	225	234	23	3.8	14	234	248	21	5.6
21:00-22:00	6	147	153	12	3.9	9	180	189	22	4.8
全時間帯合計	413	6,767	7,180	617	5.8	409	6,563	6,972	591	5.9

## (b) 走行速度

調査結果は、表 5.2-6 に示すとおりである。

表 5.2-6 走行速度調査結果

調査地点	路線名	方向	平均速度 (km/時)
No. A	横須賀葉山線	至 木古庭駐在所前	43.1
		至 不動橋	45.1

## (c) 道路構造

調査結果は、図 5.2-1 に示すとおりである。

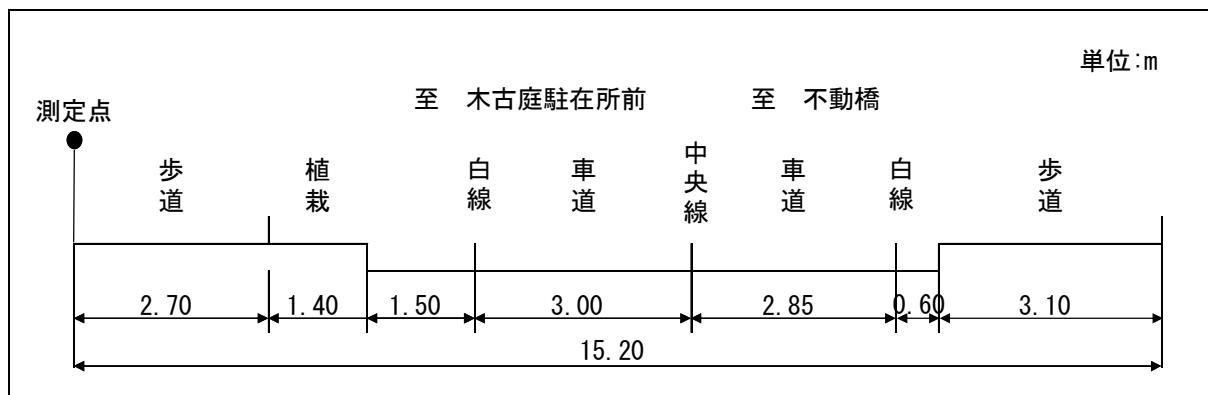


図 5.2-1 道路断面

#### (4) 騒音及び低周波音レベルの状況

##### ① 調査事項

調査事項は、表 5.2-7 に示すとおりである。

表 5.2-7 騒音及び低周波音の状況における調査事項

項目	調査事項
騒音の状況	環境騒音、道路交通騒音
低周波音の状況	低周波音
道路交通の状況	自動車交通量、走行速度、道路構造

##### ② 調査方法

調査方法は、表 5.2-8～表 5.2-9 に示すとおりである。

表 5.2-8 騒音の状況における調査方法

項目	調査方法
環境騒音	「騒音に係る環境基準について」(最終改正平成 24 年、環境省告示第 54 号) 及び「JISZ8731 環境騒音の表示・測定方法」に準拠する方法
道路交通騒音	「騒音に係る環境基準について」(最終改正平成 24 年、環境省告示第 54 号) 及び「JISZ8731 環境騒音の表示・測定方法」に準拠する方法

表 5.2-9 低周波音の状況における調査方法

項目	調査方法
低周波音	低周波音の調査方法は、「低周波音の測定方法に関するマニュアル」(平成 12 年 10 月、環境庁大気保全局) に準拠する方法

##### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、表 5.2-10～表 5.2-11 に示すとおりである。

表 5.2-10(1) 騒音の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
環境騒音	調査地点は図 5.2-2 に示す 4 地点 (No. 1～No. 4) とした。
道路交通騒音	調査範囲及び地点は、図 5.2-2 に示す工事用車両の走行ルート上の 1 地点 (No. A) とした。

表 5.2-10(2) 環境騒音調査地点と選定根拠

No.	地 点	選定根拠
1	西光寺 (上山口小学校)	対象鉄塔 (No. 32、33) の付近の環境を代表する地点として、最寄りの環境保全に留意を要する施設 (上山口小学校) 付近とした。
2	長柄小学校	仮設ヘリポートの最寄りの環境保全に留意を要する施設であるため、選定した。
3	葉山中学校	仮設ヘリポート近くの環境保全に留意を要する施設であるため、選定した。
4	仮設ヘリポート	仮設ヘリポート付近の環境を代表する地点として選定した。

表 5.2-11 低周波音の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
低周波音	調査地点は図 5.2-2 に示す 4 地点 (No. 1～No. 4) とした。

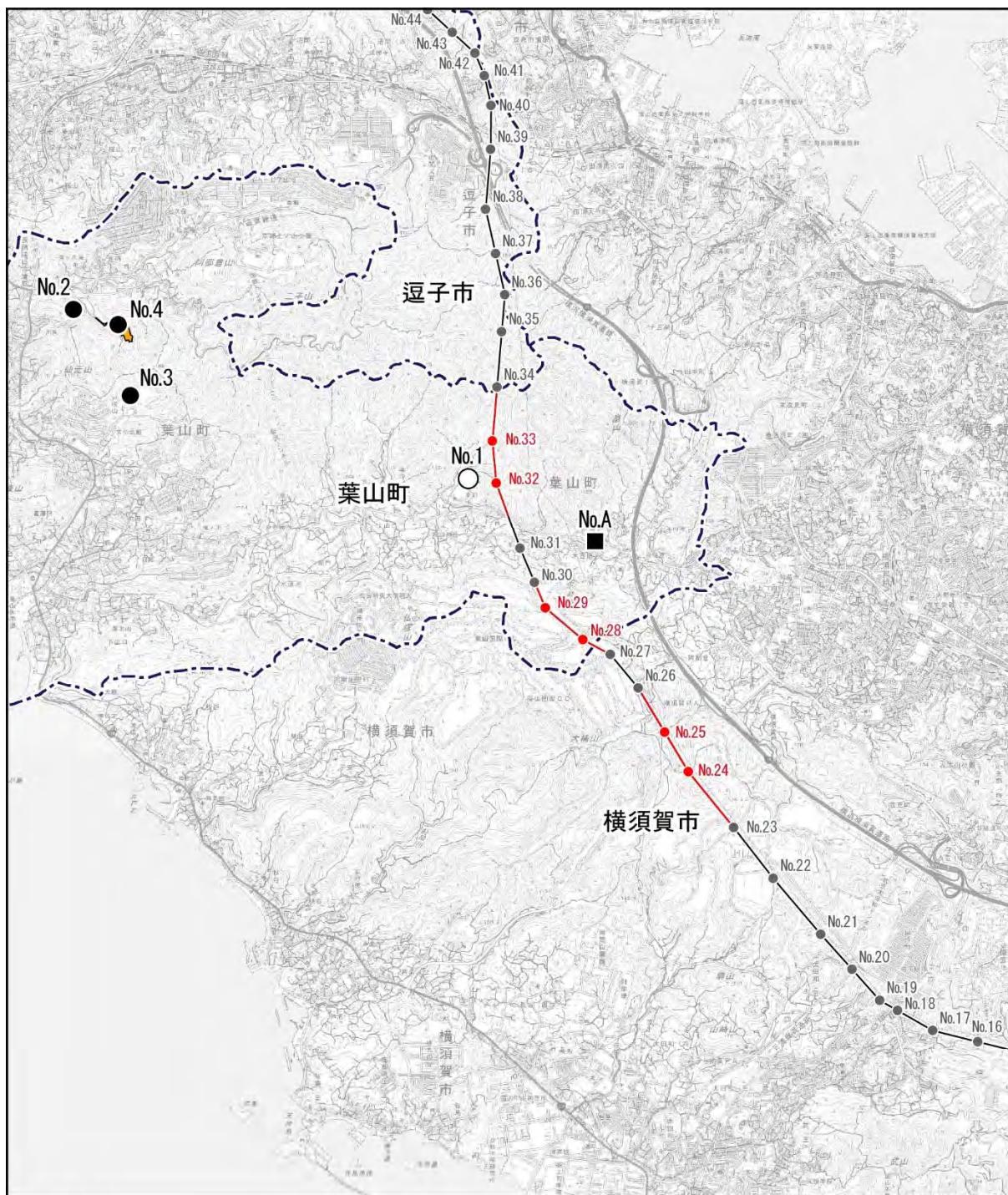
#### ④ 調査時期

調査時期は表 5.2-12 に示すとおりである。

表 5.2-12 騒音及び低周波音レベルの状況の現地調査時期

項目		調査日
騒音の状況	環境騒音 (No. 1)	令和 6 年 2 月 14 日 (水) 6:00~22:00
	環境騒音 (No. 2~No. 4)	令和 6 年 10 月 2 日 (水) 6:00~22:00
	道路交通騒音 (No. A)	令和 6 年 2 月 14 日 (水) 6:00~22:00
低周波音の状況 (No. 1)		令和 6 年 2 月 14 日 (水) 6:00~22:00
低周波音の状況 (No. 2~No. 4)		令和 6 年 10 月 2 日 (水) 6:00~22:00

注) No. 2~No. 4 地点については、ヘリポート位置の確定後に追加で調査を実施した。



### 凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 実施区域の工事用地  
(仮設ヘリポート)
- 環境騒音・振動・低周波音調査地点
- 環境騒音・低周波音調査地点
- 道路交通騒音・振動・交通量調査地点



1:50,000

0 0.5 1 1.5 2 km

図 5.2-2 騒音・振動・低周波音  
調査地点

## ⑤ 調査結果

### ア 騒音の状況

#### (a) 環境騒音

調査結果は、表 5.2-13 に示すとおりである。

表 5.2-13 環境騒音調査結果

区分	調査地点	騒音レベル $L_{Aeq}$ (dB)
環境騒音	No. 1	48
	No. 2	54
	No. 3	51
	No. 4	49

注) 表中の値は、昼間 (6 時～22 時) の等価騒音レベルの平均値である。

#### (b) 道路交通騒音

調査結果は、表 5.2-14 に示すとおりである。

表 5.2-14 道路交通騒音調査結果

区分	調査地点	騒音レベル $L_{Aeq}$ (dB)
道路交通騒音	No. A	67

注) 表中の値は、昼間 (6 時～22 時) の等価騒音レベルの平均値である。

### イ 低周波音の状況

#### (a) 低周波音

調査結果は、表 5.2-15(1)～(2) に示すとおりである。

表 5.2-15(1) 低周波音圧レベル (1/3 オクターブバンド平坦特性) 調査結果

調査地点	中心周波数 (Hz)																			
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
No. 1	60.0	58.9	57.0	55.6	54.3	52.7	51.5	50.1	48.5	47.1	47.6	49.6	49.1	49.7	50.3	48.8	48.5	47.0	46.3	45.8
No. 2	74.9	74.1	72.4	71.2	69.8	68.0	66.4	64.7	63.0	61.5	59.5	57.3	55.5	53.6	52.2	52.0	52.1	51.8	51.0	49.5
No. 3	70.3	68.8	67.0	65.5	63.5	61.6	59.3	57.2	54.9	53.2	50.5	48.1	45.8	45.3	45.5	46.2	47.2	46.2	46.5	45.7
No. 4	67.4	66.6	65.2	63.5	62.4	60.7	59.0	58.3	55.6	54.3	52.8	51.0	51.6	51.0	50.7	51.4	51.9	51.7	51.0	49.3

表 5.2-15(2) 低周波音圧レベル (G 特性音圧レベル) 調査結果

地点名	低周波音 レベル (L <sub>Geq</sub> )
No. 1	62
No. 2	69
No. 3	60
No. 4	65

## 第2節 振動

### 1. 振動

#### (1) 地形及び地質の状況

##### ① 調査事項

調査事項は振動の伝搬に係る地形及び地質の状況とした。

##### ② 調査方法

調査方法は、地形図等の既存資料により、実施区域とその周辺地域における地形及び地質の状況を把握した。

##### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

##### ④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

##### ⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の地形分類図は、「別添 3-2 第2章第3節地象」(p. 3-2-82) に示すとおりである。

実施区域のほとんどは大起伏丘陵地または小起伏山地に位置している。また、周辺地域には振動の伝搬に影響を及ぼすような建築物や工作物はない。

## (2) 土地利用の状況

### ① 調査事項

調査事項は特に静穏の保持を要する施設等の状況、用途地域の指定状況及びその他の土地利用の状況とした。

### ② 調査方法

調査方法は、土地利用現況図等の既存資料により土地利用状況を把握した。

### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

### ④ 調査時期

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

### ⑤ 調査結果

実施区域及び周辺地域の静穏の保持を要する施設等の状況は「別添 3-2 第 1 章第 7 節 環境保全に留意を要する施設」(p. 3-2-19) に、用途地域の指定状況は「別添 3-2 第 1 章第 4 節土地利用」(p. 3-2-8) に示すとおりである。

実施区域は全て市街化調整区域に指定されている。

### (3) 振動の発生源の状況

#### ① 調査事項

##### ア 既存資料調査

調査事項は実施区域周辺の事業場及び道路、鉄道等の主な振動発生源の状況とした。

##### イ 現地調査

調査事項は、表 5-2-1 に示すとおりである。

#### ② 調査方法

##### ア 既存資料調査

調査方法は、地形図、土地利用現況図等の既存資料により工場、事業場、道路、鉄道等の主要な振動の発生源の状況について把握した。

##### イ 現地調査

調査事項は、表 5-2-2 に示すとおりである。

#### ③ 調査範囲及び地点

##### ア 既存資料調査

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

##### イ 現地調査

調査範囲及び地点は、表 5.2-3 に示すとおりである。

#### ④ 調査時期

##### ア 既存資料調査

既存資料は入手可能な最新の資料とした。

##### イ 現地調査

調査時期は表 5.2-4 に示すとおりである。

## ⑤ 調査結果

### ア 既存資料調査

実施区域及び周辺地域の土地利用現況図は、「別添 3-2 第 2 章第 4 節土地利用」(p. 3-2-6) に、実施区域及び周辺地域における主要な道路及び鉄道の状況は「別添 3-2 第 1 章第 5 節交通」(p. 3-2-10) に示すとおりである。

実施区域は山林、民間空地に位置しており、周辺地域に軽工業用地があるものの振動の発生源となる工場、事業場はない。

主要な道路については、実施区域の東側には一般国道 16 号（横浜横須賀道路）が南北に通り、北側に逗子 IC 及び横須賀 IC、南側に衣笠 IC が位置している。また、東西方向の道路として、実施区域のほぼ中央に横須賀葉山線、南側に横須賀三崎線と三浦縦貫道路が通っている。

鉄道については、実施区域の北から東側にかけて、JR 東日本横須賀線及び京浜急行本線が通っている。鉄道駅は、横須賀線が東逗子、田浦、横須賀、衣笠の 4 駅が、京浜急行本線は、京急田浦、安針塚、逸見、汐入、横須賀中央の 5 駅が位置している。

### イ 現地調査

#### (a) 自動車交通量

調査結果は、「別添 5-2-1 第 1 章第 1 節騒音・低周波音」(p. 5-2-1) に示すとおりである。

#### (b) 走行速度

調査結果は、「別添 5-2-1 第 1 章第 1 節騒音・低周波音」(p. 5-2-1) に示すとおりである。

#### (c) 道路構造

調査結果は、「別添 5-2-1 第 1 章第 1 節騒音・低周波音」(p. 5-2-1) に示すとおりである。

#### (4) 振動レベルの状況

##### ① 調査事項

調査事項は、表 5.2-16 に示すとおりである。

表 5.2-16 振動レベルの状況における調査事項

項目	調査事項
振動の状況	環境振動、道路交通振動

##### ② 調査方法

調査方法は、表 5.2-17 に示すとおりである。

表 5.2-17 振動の状況における調査方法

項目	調査方法
環境振動	「振動規制法施行規則」（昭和 51 年 11 月、総理府令第 58 号）に基づく道路交通の振動の限度に定められている測定法及び「JISZ8735 振動レベル測定方法」に定められている測定方法に準拠する方法
道路交通振動	

##### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、表 5.2-18 に示すとおりである。

表 5.2-18 振動の状況における調査範囲及び地点

項目	調査範囲及び地点
環境振動	調査地点は図 5.2-2 に示す 1 地点とした。
道路交通振動	調査範囲及び地点は、図 5.2-2 に示す工事用車両の走行ルート上の 1 地点とした。

##### ④ 調査時期

調査時期は表 5.2-19 に示すとおりである。

表 5.2-19 振動レベルの状況の現地調査時期

項目	調査日	
振動の状況	環境振動 (No. 1)	令和 6 年 2 月 14 日 (水) 6:00~22:00
	道路交通振動 (No. A)	令和 6 年 2 月 14 日 (水) 6:00~22:00

⑤ 調査結果

ア 環境振動

調査結果は、表 5.2-20 に示すとおりである。

表 5.2-20 環境振動調査結果

区分	調査地点	振動レベル $L_{10}$ (dB)
環境振動	環境振動調査地点	12

注) 使用した振動レベル計(VM-55)の測定範囲は「25~129dB」なので、25dB 未満は参考値とした。

イ 道路交通振動

調査結果は、表 5.2-21 に示すとおりである。

表 5.2-21 道路交通振動調査結果

区分	調査地点	振動レベル $L_{10}$ (dB)
道路交通振動	道路交通振動調査地点	35

ウ 地盤卓越振動数

調査結果は、表 5.2-22 に示すとおりである。

表 5.2-22 地盤卓越振動数調査結果

区分	調査地点	地盤卓越振動数
道路交通振動	道路交通振動調査地点	16.5

### 第3節 廃棄物・発生土

#### 1. 廃棄物

##### (1) 再使用・再生利用、中間処理、最終処分の状況

###### ① 調査事項

調査事項は下記に示す項目とした。

- ・廃棄物の再使用・再生利用及びその活用の状況
- ・廃棄物の中間処理の状況
- ・最終処分の状況

###### ② 調査方法

調査方法は、既存資料調査とした。

###### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

###### ④ 調査結果

「平成30年度建設副産物実態調査結果」（令和2年1月、国土交通省）によると、神奈川県における建設工事の建設廃棄物の再資源化率等は表5.2-23に示すとおりである。

他の廃棄物の種類と比べ、廃石膏ボード及び廃塩ビ管については搬出量ベースの再資源化率が低い値となっている。

また平成31年3月31日現在における神奈川県の再資源化施設等の設置状況は、表5.2-24に示すとおりである。

表5.2-23 神奈川県における建設廃棄物の再資源化率等

廃棄物	発生量(千t)				搬出量ベース 再資源化等(縮減を含む)		
	発生量(千t)	現場内 利用量	現場内 減量化量	搬出量			率 (%)
				再資源化	減量化 (縮減)	最終処分	
アスファルト塊	1,025	5.5	0.0	1,019.4	0.0	0.2	100
コンクリート塊	1,520	234	0.0	1,286	0.0	0.2	100
建設汚泥	551.4	5.1	0.4	445.0	59.8	41.1	92.5
混合廃棄物	101.3	0.0	0.0	72.7	9.4	19.2	81.0
廃プラ	21.9	0.0	0.0	12.4	5.3	4.2	80.7
紙くず	11.1	0.0	0.0	8.4	2.3	0.3	97.2
金属くず	111.5	0.0	0.0	106.2	0.0	5.3	95.2
廃石膏ボード	42.2	0.0	0.0	27.5	0.0	14.7	65.3
廃塩ビ管	1.5	0.0	0.0	0.8	0.0	0.6	58.8
建設発生木材	182.8	8.3	0.0	168.1	1.7	4.7	97.3

資料)「平成30年度建設副産物実態調査結果」(令和2年1月、国土交通省)

注1)建設発生木材は、伐木材・除根材等を含んだ値である。

注2)四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

表 5.2-24 神奈川県における再資源化施設等の設置状況（平成 31 年 3 月 1 日現在）

設置場所	建設廃材施設		建設汚泥 処理施設	建設発生木材処理施設		建設混合廃棄物 選別・破碎・圧縮
	破碎	再生 AS 合材		チップ化	焼却	
神奈川県	24	8	1	8	1	5

資料)「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」(令和 2 年 1 月、国土交通省)

注)再生 AS 合材: 再生アスファルト合材の製造施設を示す。

## 2. 発生土

### (1) 発生土の処分施設の状況及び発生土の利用先の状況

#### ① 調査事項

発生土の処分施設の状況及び発生土の利用先の状況とした。

#### ② 調査方法

調査方法は、既存資料調査とした。

#### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、実施区域及びその周辺とした。

#### ④ 調査結果

「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）によると、神奈川県の建設工事における建設発生土は 5,088.2 千 m<sup>3</sup> であり、建設発生土の搬出及び土砂の利用状況率は表 5.2-25 に示すとおりである。

また、神奈川県における建設発生土の利用促進施設は表 5.2-26 に示すとおりである。

表 5.2-25 神奈川県における建設発生土の搬出及び土砂の利用状況

区分	① 場外搬出量 (千 m <sup>3</sup> )									④ 現場内利用量 (千 m <sup>3</sup> )	有効利用率 (%)		
	② 有効利用量						③ その他						
	公共工事等での利用	売却	他の工事現場(海面)	採石場・砂利採取等跡地復旧	最終処分場覆土	公共工事以外の有効利用	廃棄物最終処分場(覆土以外)	ストックヤード等再利用無し	土捨場・残土処分場				
建設工事	297.6	0.0	8.9	690.4	16.1	1,590.6	2.7	20.1	471.7	1,990.1	90.3		

資料) 「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）

注 1) 有効利用率の算出方法は下記に示すとおりである。

$$((\text{②}+\text{④}) / (\text{①}+\text{④})) \times 100$$

注 2) 四捨五入の関係上、合計値があわない場合がある。

表 5.2-26 神奈川県における建設発生土の利用促進施設設置状況

設置場所	ストックヤード	土質改良プラント	建設発生土受入地
神奈川県	2	1	6

資料) 「平成 30 年度建設副産物実態調査結果」（令和 2 年 1 月、国土交通省）

## 第4節 植物・動物・生態系

### 1. 植物

#### (1) 植物相

##### ① 調査事項

種子植物及びシダ植物とした。

##### ② 調査方法

調査範囲内を踏査して目視観察により確認した植物の種名等を記録した。踏査中に重要な植物種が確認された場合には、種名、確認位置、生育状況等を記録した。また、植物種は移動能力を持っていないため、実施区域内及び外（工事用地の内・外：p. 4-1-7～p. 4-1-9 参照）で分けて記録して整理した。そのほか、「(2) 植生」の「イ 群落構造」のコドラー調査で確認された種についても、植物相に含めて記録した。

なお、実施区域近辺の二子山山系では、三浦半島の二子山山系の自然を守り、地元住民、利用者、行政、土地所有者、市民団体等が協力し、人と自然のバランスの良い関係を構築し、次世代へ伝えてゆくことを目的として設立された「二子山山系自然保護協議会」が保全活動を行っている。その活動プロジェクトの一環で、実施区域の鉄塔 No. 32 及び No. 33 周辺に存在する葉山町上山口寺前谷戸地区では、「寺前谷戸復元プロジェクト」を立ち上げて、自然環境の保全活動の一環で、通年動植物の記録を行っている。本事業では事業計画の説明を行う際に、本団体が寺前谷戸地区に生息・生育していると認識している植物及び動物全般について、聞き取り調査を行い、その結果も調査結果として反映した。

##### ③ 調査範囲及び地点、踏査ルート

調査範囲及び地点、踏査ルートは、図 5.2-3(1)～(2)に示すとおりである。東京南線 3, 4 号線沿いの実施区域及びその周辺約 500m、仮設ヘリポートの工事用地及びその周辺約 200m の範囲とした。また、植生 (p. 5-2-45) のコドラー調査地点は各植生が典型的に発達する群落内に複数箇所設定した。そのほか、実施区域外の鉄塔である No. 34 から No. 37 付近にかけての葉山近郊緑地保全区域（森戸川源流域）を重要な区域として一体的に扱い、調査範囲に追加した。

なお、両実施区域で調査範囲が異なる理由は、以下に示すとおりである。

#### ＜植物の調査範囲の設定理由＞

実施区域	範囲	理由
東京南線 3, 4 号線	実施区域及びその周辺約 500m	実施計画書の段階では事業計画が定まっておらず、工事に係る運搬路や基地等が送電線から離れた位置に計画することも想定し、500mとやや広い範囲で設定した。
仮設ヘリポート	実施区域及びその周辺約 200m	ヘリポート候補地として選定した時点で、改変範囲はほぼ定まっており、運搬路も既存の谷内の限定的な面整備であることから、「面整備事業環境影響評価マニュアル（面整備事業環境影響評価研究会 平成 11 年）」を参考にして、植物の調査範囲を 200m として設定した。

④ 調査時期、期間又は時間帯

植物相の調査実施日は表 5.2-27(1)～(2)に、聞き取り調査実施日は表 5.2-28 に示すとおりである。

表 5.2-27(1) 植物相調査時期及び調査期日（東京南線 3,4 号線）

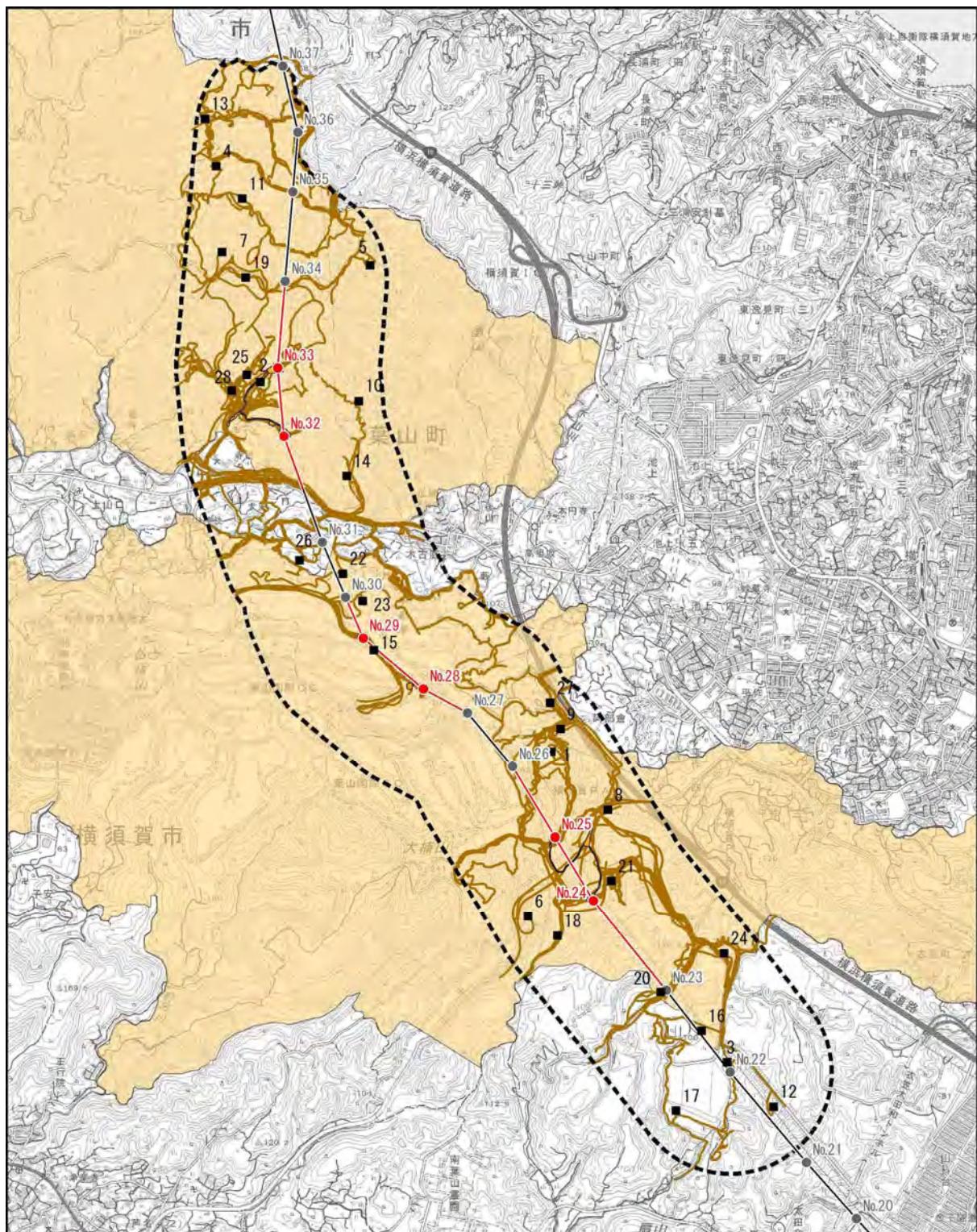
調査項目	調査時期	調査期日
植物相 (種子植物及びシダ植物)	早春季	令和 6 年 3 月 25 日～27 日、4 月 1 日～2 日
	春季	令和 6 年 5 月 9 日～10 日、15 日～17 日
	夏季	令和 6 年 7 月 8 日～12 日
	秋季	令和 6 年 10 月 7 日～11 日

表 5.2-27(2) 植物相調査時期及び調査期日（仮設ヘリポート）

調査項目	調査時期	調査期日
植物相 (種子植物及びシダ植物)	秋季	令和 6 年 11 月 6 日
	早春季	令和 7 年 3 月 21 日
	春季	令和 7 年 5 月 8 日
	夏季	令和 7 年 7 月 22 日

表 5.2-28 聞き取り調査実施期日

項目	調査方法	聞き取りを行った団体	期日
植物相	聞き取りによる生育情報確認	二子山山系自然保護協議会 寺前谷戸復元プロジェクト 代表者	令和 6 年 9 月 25 日（水） 14:00～15:40



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 近郊緑地保全区域
- 実施区域の工事用地



植物の調査範囲

■ 植生のコドラー地点



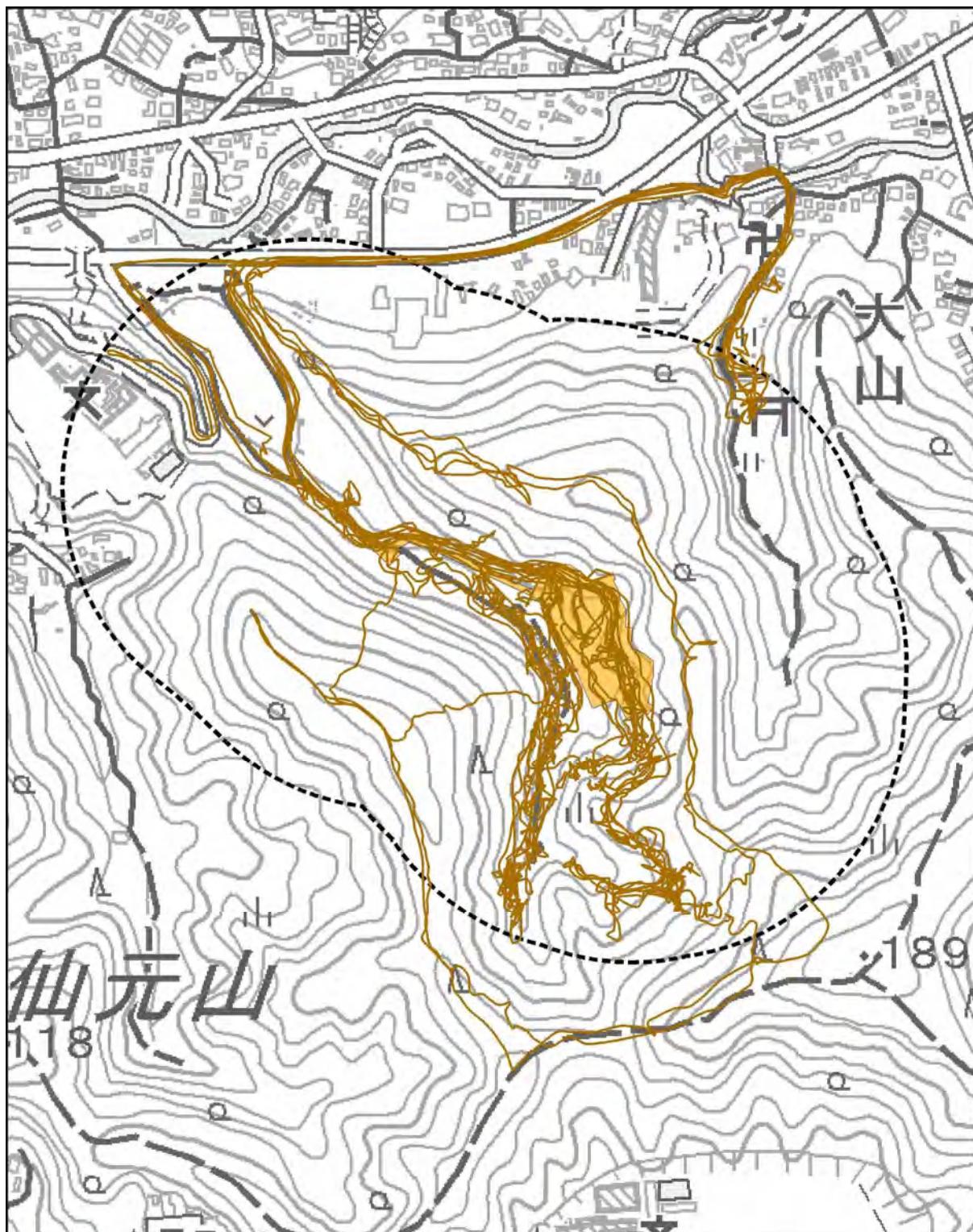
植物の踏査ルート



1:30,000

0 0.3 0.6 0.9 1.2 km

図 5.2-3(1) 植物の調査範囲  
及び地点、踏査ルート



凡 例

- 実施区域の工事用地
- 植物の調査範囲
- 植物の踏査ルート



1:5,000

0 50 100 150 200m

図 5.2-3(2) 植物の調査範囲  
及び地点、踏査ルート

## ⑤ 調査結果（現地調査）

現地調査により確認された植物種の分類別確認種数は表 5.2-29 に、植物種は表 5.2-30(1)～(18)に示すとおりである。

現地調査の結果、135 科 891 種の植物種が確認された。分類別では、シダ植物が 16 科 84 種、裸子植物が 5 科 11 種、被子植物が 114 科 796 種であった。

調査地域は神奈川県東部の三浦半島北部に位置し、標高約 50m から約 210m までの地域であり、植生の垂直分布から見ると暖帯低地に相当するが、森戸川源流域、阿部倉周辺や入り組んだ谷では暖帯山地の種も見られた。

調査地域は管理放棄された環境が多く、林床にはリョウメンシダ、アズマネザサ、アオキが繁茂する箇所が目立ったが、オリヅルシダ、オオバイボタ、トベラといった沿海地性の種、森戸川源流域付近ではイワトラノオ、イワギボウシ、ヒメウツギ、イタヤカエデ、ケイワタバコ等の山地性の種が見られるなど、比較的多様の高い植物相であった。

表 5.2-29 植物の分類別確認種数

分類	確認時期								合計	
	早春季		春季		夏季		秋季			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物	13	62	12	62	15	71	15	61	16	84
裸子植物	4	7	5	8	5	11	5	8	5	11
被子植物	基部被子植物	1	2	1	2	1	1	2	1	2
	一	1	1	1	2	1	3	1	1	3
	モクレン類	4	9	4	9	4	10	4	9	10
	単子葉類	16	77	18	135	21	129	20	119	22
	真正双子葉類	65	297	79	420	84	435	82	410	86
合計		104 科	455 種	120 科	638 種	131 科	660 種	128 科	610 種	135 科
										891 種

注 1) 植物の分類体系は、国際基準の分類体系 APG III に準拠した。

注 2) 表中の「一」は、被子植物の分類の中で他の分類に属さないもの（センリョウ目）を示す。

表 5.2-30(1) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ科	ヒロハノトウゲシバ						○		
2		イワヒバ科	イヌカタヒバ		○				○		○
3		トクサ科	スギナ	○	○	○	○	○	○	○	○
4		ハナヤスリ科	オオハナワラビ	○	○	○	○	○	○	○	○
5			フユノハナワラビ	○							○
6		ゼンマイ科	ゼンマイ			○	○	○	○	○	○
7		コケシノブ科	アオホラゴケ	○		○					
8			ウチワゴケ	○				○		○	
9			セイタカホラゴケ	○		○		○		○	
10		カニクサ科	カニクサ	○	○	○	○	○	○	○	○
11		ホングウシダ科	ホラシノブ								○
12		コバノイシカグマ科	イヌシダ					○			
13			オウレンシダ				○				
14			イワヒメワラビ	○		○	○	○		○	
15			フモトシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
16			ケブカフモトシダ	○							○
17			フモトカグマ	○				○	○	○	
18			ワラビ				○				
19		イノモトソウ科	ホウライシダ				○		○		○
20			ハコネシダ		○	○	○		○	○	
21			イヌイワガネソウ	○					○		
22			イワガネゼンマイ	○	○	○			○		○
23			イワガネソウ	○	○	○	○	○	○	○	
24			タチシノブ	○	○		○		○	○	○
25			オオバノイノモトソウ	○	○	○	○	○	○		○
26			イノモトソウ		○	○	○	○	○	○	○
27			マツサカシダ	○	○		○		○		○
28			アマクサシダ	○	○				○		
29			オオバノアマクサシダ								○
30			オオバノハチジョウシダ	○		○		○		○	
31			ナチシダ	○		○		○		○	
32		チャセンシダ科	コバノヒノキシダ				○				○
33			トラノオシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
34			イワトラノオ	○				○			○
35		ヒメシダ科	ヒメワラビ				○	○	○		○
36			ミドリヒメワラビ			○	○	○	○	○	○
37			ゲジゲジシダ (広義)	○	○	○	○	○	○	○	○
38			ホシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
39			ハシゴシダ	○					○		
40			ハリガネワラビ	○							
41			ヤワラシダ			○		○			
42			ミヅシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
43		シシガシラ科	コモチシダ		○				○		○
44		メシダ科	イヌワラビ	○	○	○	○	○	○	○	○
45			シケチシダ					○	○		
46			ヤマイヌワラビ		○		○				
47			ホソバシケシダ				○	○	○	○	○
48			セイタカシケシダ				○		○		
49			シケシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
50			ヘラシダ	○							

表 5.2-30(2) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
51	シダ植物	メシダ科	フモトシケシダ			○	○	○	○		○
52			ヒカゲワラビ			○		○		○	○
53			ノコギリシダ			○					
54		オシダ科	ホソバカナワラビ		○		○		○		○
55			ハカタシダ					○			
56			コバノカナワラビ		○			○			
57			リョウメンシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
58			ナガバヤブソテツ	○	○	○	○	○	○	○	○
59			オニヤブソテツ		○		○	○			○
60			ヤブソテツ	○	○	○	○	○	○	○	○
61			テリハヤブソテツ	○	○	○	○	○	○	○	○
62			ヤマイタチシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
63			ベニシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
64			ベニオオイタチシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
65			キンキイタチシダ	○	○	○	○	○	○	○	○
66			オオベニシダ	○	○	○	○		○		○
67			リョウトウイタチシダ	○	○			○			
68			クマワラビ	○	○	○	○	○	○	○	○
69			アイノコクマワラビ	○	○		○				
70			トウゴクシダ	○	○		○	○	○	○	○
71			ヒメイタチシダ		○			○			
72			オクマワラビ	○	○	○	○	○	○		
73			アスカイノデ	○	○	○	○	○	○	○	○
74			オリヅルシダ			○		○			
75			アイアスカイノデ	○	○		○		○		○
76			ミウライノデ	○	○	○	○	○	○		
77			オオタニイノデ					○			
78			イノデ	○	○	○	○		○		○
79			ジュウモンジシダ	○	○	○	○		○	○	○
80			ヒメカナワラビ			○		○		○	○
81	ウラボシ科	ウラボシ科	マメヅタ	○	○	○	○	○	○		○
82			ノキシノブ	○	○	○	○	○	○		○
83			クリハラン		○		○		○		○
84			ミツデウラボシ		○			○			
85	裸子植物	イチョウ科	イチョウ				○		○		○
86			マツ科	○	○		○	○	○	○	
87			クロマツ					○	○	○	
88		マキ科	イヌマキ		○		○	○	○		○
89			ヒノキ		○		○		○		○
90			サワラ						○		
91			スギ	○	○	○	○	○	○	○	○
92			イブキ	○		○		○			
93			カイヅカイブキ						○		
94		イチイ科	イヌガヤ	○	○	○	○	○	○	○	○
95			カヤ	○	○		○	○	○	○	○
96	基部被子植物	マツブサ科	シキミ		○		○				○
97			サネカズラ		○	○	○	○	○	○	○
98	-	センリョウ科	ヒトリシズカ						○		
99			フタリシズカ				○		○		○
100			センリョウ		○		○		○		

表 5.2-30(3) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
101	モクレン類	ドクダミ科	ドクダミ	○	○	○	○	○	○	○	○
102			ハンゲショウ		○				○		
103			コショウ科	フウトウカズラ		○		○		○	
104			ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	○	○	○	○	○	○	○
105			カンアオイ	○	○		○		○	○	○
106		クスノキ科	クスノキ	○	○		○	○	○		○
107			ヤブニッケイ	○	○	○	○	○	○	○	○
108			カゴノキ				○		○		○
109			タブノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
110			シロダモ	○	○	○	○	○	○	○	○
111	単子葉類	ショウブ科	ショウブ	○							
112			セキショウ		○	○	○		○		○
113		サトイモ科	コンニヤク						○		
114			カントウマムシグサ			○	○	○	○		
115			ウラシマソウ	○	○	○	○	○	○		○
116			サトイモ		○				○		○
117			ヒメウキクサ				○		○		
118			アオウキクサ			○	○		○		
119			コウキクサ		○		○				
120			カラスピビシャク			○	○		○	○	○
121			ウキクサ			○			○		
122		オモダカ科	オモダカ						○		
123		トチカガミ科	オオカナダモ				○				
124			ヒロハトリゲモ						○		
125		ヤマノイモ科	ヤマノイモ			○	○	○	○	○	○
126			ナガイモ			○	○		○		○
127			キクバドコロ				○		○		○
128			ヒメドコロ				○	○	○		○
129			オニドコロ	○		○	○	○	○	○	○
130		イヌサフラン科	ホウチャクソウ		○	○	○	○	○	○	○
131			チゴユリ	○		○					
132		サルトリイバラ科	サルトリイバラ	○	○	○	○	○	○	○	○
133			シオデ			○	○	○	○	○	○
134		ユリ科	ウバユリ	○	○	○	○		○		○
135			バイモ		○						
136			ヤマユリ		○	○	○	○	○	○	○
137			シンテッポウユリ				○	○	○		○
138			オニユリ						○		
139			ホトトギス		○		○	○	○		○
140			ヤマホトトギス	○	○	○	○	○	○	○	○
141		ラン科	シラン					○		○	
142			エビネ		○		○		○		○
143			ギンラン				○		○		
144			キンラン				○		○		○
145			ササバギンラン				○		○		
146			サイハイラン	○	○	○	○		○	○	○
147			スルガラン		○				○		
148			シュンラン		○		○		○	○	○
149			マヤラン		○				○		
150			タシロラン						○		

表 5.2-30(4) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
151	単子葉類	ラン科	アキザキツシロラン								○
152			クロヤツシロラン								○
153			アケボノシュスラン	○		○		○			○
154			ハチジョウシュスラン	○		○		○	○	○	○
155			ミヤマウズラ			○		○			
156			コクラン	○	○	○	○	○	○	○	○
157			ネジバナ					○			
158			カゲロウラン		○	○		○		○	○
159		アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	○	○	○	○	○	○		○
160			ドイツアヤメ								○
161			シャガ	○	○	○	○	○	○	○	○
162			キショウブ			○					
163			ニワゼキショウ	○	○	○		○			
164			オオニワゼキショウ			○	○	○	○		
165		ススキノキ科	ヤブカヌゾウ	○	○	○	○	○	○		○
166	ヒガンバナ科	ヒガンバナ科	ノビル	○	○	○	○				○
167			ニラ				○		○		○
168			ハナニラ	○	○						
169			スノーフレーク	○	○						
170			ヒガンバナ	○	○		○			○	○
171			スイセン	○	○		○				
172			ハタケニラ				○				
173	クサスギカズラ科	クサスギカズラ科	オランダキジカクシ								○
174			ハラン		○		○		○		○
175			ツルボ	○	○	○	○			○	○
176			イワギボウシ				○		○		○
177			オオバギボウシ				○		○		
178			ヒメヤブラン						○	○	
179			ヤブラン	○	○	○	○	○	○	○	○
180			ノシラン	○	○		○		○		○
181			ジャノヒゲ		○		○	○	○	○	○
182			ナガバジャノヒゲ	○	○	○	○	○	○	○	○
183			オオバジャノヒゲ	○	○	○	○	○	○	○	○
184			オオアマナ		○						
185			ナルコユリ		○	○	○	○	○	○	○
186			アマドコロ			○	○				
187			キチジョウソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
188			オモト		○		○		○		○
189		ヤシ科	シュロ	○	○	○	○	○	○	○	○
190	ツユクサ科	ツユクサ科	マルバツユクサ							○	
191			ツユクサ	○		○	○	○	○	○	○
192			イボクサ						○		○
193			ヤブミョウガ			○	○	○	○	○	○
194			オオトキワツユクサ				○				○
195			ノハカタカラクサ	○		○		○		○	
196			ミドリハカタカラクサ				○		○		○
197			ムラサキツユクサ				○		○		
198		ミズアオイ科	コナギ						○		○
199		カンナ科	ハナカンナ								○
200		ショウガ科	ミョウガ				○	○	○	○	○

表 5.2-30(5) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
201	単子葉類	ガマ科	ヒメガマ							○	
202			ガマ					○			
203		イグサ科	イグサ	○	○	○		○	○		○
204			コゴメイ				○				
205			クサイ			○	○	○	○		○
206			スズメノヤリ		○	○	○				
207		カヤツリグサ科	シラスゲ	○	○	○	○	○	○	○	○
208			エナシヒゴクサ			○	○				
209			メアオスゲ			○					
210			ヒメカンスゲ	○	○		○				
211			カサスゲ							○	○
212			ケスゲ	○	○	○	○	○	○		○
213			マスクサ			○	○	○	○		
214			カワラスゲ				○				
215			ヒゴクサ			○	○		○		
216			ヒカゲスゲ		○		○				
217			ナキリスゲ	○	○	○	○	○	○	○	○
218			アオスゲ				○				
219			コジュズスゲ				○				
220			ヌカスゲ				○				
221			ノゲヌカスゲ				○				
222			カンスゲ		○		○		○		○
223			ホンモンジスゲ		○						
224			ヤブスゲ				○				
225			センダイスゲ							○	
226			ヤワラスゲ			○	○				
227			ヒメクグ							○	○
228			タマガヤツリ								○
229			メリケンガヤツリ		○		○	○	○		
230			コゴメガヤツリ					○			
231			カヤツリグサ								○
232			ハマスゲ						○		○
233			マツバイ					○			○
234			ヒデリコ					○			○
235	イネ科	イネ科	ヌカボ			○	○				
236			コヌカグサ					○	○		
237			スズメノテッポウ		○		○				
238			メリケンカルカヤ				○			○	○
239			コブナグサ				○	○	○	○	○
240			ヤマカモジグサ			○	○		○		○
241			コバンソウ				○		○		
242			ヒメコバンソウ				○		○		
243			イヌムギ			○	○		○		
244			スズメノチャヒキ				○				
245			キツネガヤ					○	○		
246			ノガリヤス			○	○	○		○	○
247			ジュズダマ			○		○	○	○	○
248			ギヨウギシバ	○		○	○	○	○		○
249			カモガヤ				○		○		
250			メヒシバ						○	○	○

表 5.2-30(6) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
251	単子葉類	イネ科	コメヒシバ								○
252			アキメヒシバ							○	○
253			イヌビエ					○	○	○	
254			ヒメイヌビエ					○			
255			オヒシバ					○	○	○	○
256			アオカモジグサ			○	○	○			
257			カモジグサ		○	○	○	○			
258			シナダレスズメガヤ				○		○	○	
259			カゼクサ						○	○	
260			ニワホコリ							○	
261			ナルコビエ					○	○	○	
262			トボシガラ		○	○					
263			ドジョウツナギ		○	○					
264			チガヤ	○	○	○		○	○	○	
265			サヤヌカグサ				○	○	○	○	
266			ササガヤ	○		○	○	○	○	○	○
267			ネズミムギ		○	○		○			
268			ホソムギ			○					
269			アシボソ				○	○	○	○	
270			オギ	○		○	○	○	○	○	
271			ススキ	○	○	○	○	○	○	○	
272			コネズミガヤ							○	
273			コチヂミザサ	○	○	○	○	○	○	○	
274			ケチヂミザサ			○	○	○	○	○	
275			ヌカキビ			○			○	○	
276			オオクサキビ						○	○	
277			シマズズメノヒエ				○	○	○	○	
278			スズメノヒエ			○					
279			タチスズメノヒエ					○	○	○	
280			チカラシバ					○		○	
281			クサヨシ			○	○	○	○	○	
282			ヨシ		○	○				○	
283			ツルヨシ				○		○		
284			モウソウチク	○	○	○	○		○		
285			ハチク		○		○				
286			マダケ		○		○		○		
287			アズマネザサ	○	○	○	○	○	○	○	
288			キボウシノ						○		
289			シブヤザサ							○	
290			メダケ		○						
291			ミゾイチゴツナギ	○		○	○				
292			スズメノカタビラ	○	○	○	○				
293			ツルスズメノカタビラ	○			○				
294			オオイチゴツナギ	○	○						
295			イチゴツナギ			○	○				
296			オオスズメノカタビラ			○	○				
297			ヒエガエリ			○	○	○	○		
298			ヤダケ	○	○						
299			クマザサ		○		○		○		
300			アズマザサ		○						

表 5.2-30(7) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
301	単子葉類	イネ科	オニウシノケグサ		○	○	○	○	○		
302			アキノエノコログサ							○	○
303			コツブキンエノコロ							○	
304			キンエノコロ							○	○
305			エノコログサ					○	○		○
306			ムラサキエノコロ					○			○
307			オカメザサ	○				○			○
308			セイバンモロコシ					○			○
309			ネズミノオ							○	○
310			カニツリグサ		○	○					
311			ナギナタガヤ					○			
312			マコモ			○		○			
313			シバ		○	○					○
314	真正双子葉類	ケシ科	クサノオウ				○				
315			キケマン	○	○						
316			ムラサキケマン	○	○	○	○	○		○	○
317			ミヤマキケマン		○		○		○		
318			タケニグサ			○	○	○		○	○
319			ナガミヒナゲシ	○	○	○	○				
320		アケビ科	ゴヨウアケビ	○	○	○	○	○	○	○	○
321			アケビ	○	○	○	○	○	○	○	○
322			ミツバアケビ	○	○	○	○	○	○	○	○
323		ツヅラフジ科	アオツヅラフジ		○	○	○	○	○	○	○
324			ツヅラフジ		○		○		○		○
325		メギ科	メギ		○				○		
326			ナンテン		○		○		○		○
327	キンポウゲ科	ツクバトリカブト	ツクバトリカブト	○	○	○	○	○	○	○	○
328			ニリンソウ	○	○	○	○				
329			シュウメイギク						○		
330			イヌショウマ		○	○	○	○	○	○	○
331			サラシナショウマ	○	○	○			○		
332			ボタンヅル	○		○	○	○	○	○	○
333			コボタンヅル			○		○	○		
334			ハンショウヅル		○	○	○	○	○	○	○
335			センニンソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
336			シロバナハンショウヅル	○	○	○	○	○	○		
337			キクザキリュウキンカ		○						
338			ケキツネノボタン	○	○	○	○	○	○	○	○
339			トゲミノキツネノボタン				○				
340			タガラシ		○		○		○		○
341			キツネノボタン			○	○				○
342			ヤマキツネノボタン			○	○		○		
343			ヒメウズ	○	○	○	○				
344			アキカラマツ	○	○	○	○	○	○	○	○
345		カツラ科	カツラ							○	
346		ユズリハ科	ヒメユズリハ	○					○		
347		ユキノシタ科	アカショウマ		○				○		
348			ヨツシベヤマネコノメ	○	○		○				
349			ヨゴレネコノメ		○		○				
350			イワボタン		○						

表 5.2-30(8) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
351	真正双子葉類	ユキノシタ科	ムカゴネコノメソウ		○		○				
352			ユキノシタ		○		○		○		○
353		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ		○	○	○		○		○
354			オカタイトゴメ				○		○		
355			オノマンネングサ						○		
356			メキシコマンネングサ	○		○					
357			ツルマンネングサ			○			○		
358			ヨコハママンネングサ					○		○	
359		ブドウ科	キレハノブドウ				○	○	○	○	
360			ノブドウ			○	○	○	○	○	○
361			ヤブカラシ	○	○	○	○	○	○	○	○
362			ツタ	○		○	○	○	○	○	○
363			エビヅル			○	○	○	○	○	○
364	マメ科	マメ科	ネムノキ			○	○	○	○	○	○
365			イタチハギ				○		○		○
366			ヤブマメ			○	○	○	○	○	○
367			ホダイモ				○				
368			ゲンゲ	○		○				○	
369			シロバナゲンゲ	○							
370			ジャケツイバラ				○				
371			ノササゲ			○	○	○	○	○	○
372			ツルマメ				○		○		
373			フジカシズウ				○		○		
374			ケヤブハギ				○	○	○	○	
375			ヌスビトハギ			○	○	○	○	○	○
376			トウコマツナギ				○		○	○	○
377			コマツナギ				○		○		
378			ヤハズソウ					○	○	○	○
379			ヤマハギ			○	○	○	○		○
380			キハギ				○	○	○		○
381			メドハギ					○	○	○	○
382			マルバハギ							○	
383			ネコハギ				○	○	○	○	○
384			ミヤギノハギ							○	
385			ミヤコグサ			○	○	○	○		
386			コメツブウマゴヤシ			○			○		
387			ネバリコメツブウマゴヤシ						○		
388			クズ			○	○	○	○	○	○
389			オオバタンキリマメ	○		○	○	○	○		○
390			ハリエンジュ				○		○		
391			コメツブツメクサ			○	○	○	○		
392			ムラサキツメクサ	○	○	○		○	○		○
393			シロツメクサ	○	○	○	○	○	○		○
394			スズメノエンドウ					○			
395			ヤハズエンドウ	○	○	○	○		○		
396			カスマグサ			○					
397			ナンテンハギ	○	○		○				○
398			ヤブツルアズキ							○	○
399			フジ	○	○	○	○	○	○	○	○
400		グミ科	ツルグミ	○	○	○	○	○	○	○	○

表 5.2-30(9) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
401	真正双子葉類	グミ科	オオバグミ		○	○	○	○	○	○	○
402			アカバグミ				○		○		
403			ナツグミ	○	○	○		○	○		○
404			ナワシログミ			○					○
405			アキグミ		○				○	○	
406		クロウメモドキ科	クマヤナギ					○			○
407			ケンポナシ			○	○	○	○		○
408		ニレ科	ケヤキ	○	○	○	○	○	○	○	○
409		アサ科	ムクノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
410			エノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
411			カナムグラ	○		○	○	○	○	○	○
412	クワ科	ヒメコウゾ			○	○	○	○	○	○	○
413		クワクサ					○	○	○		
414		イヌビワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
415		イタビカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
416		マグワ				○					
417		ヤマグワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
418		イラクサ科	ハマヤブマオ					○	○	○	○
419			カタバヤブマオ					○	○	○	
420			オオバコアカソ					○	○	○	
421			ヤブマオ		○	○		○	○	○	○
422			コヤブマオ					○	○		
423			アオカラムシ				○	○	○	○	
424			カラムシ	○	○	○	○	○	○	○	○
425			メヤブマオ	○	○	○		○			○
426			ナガバヤブマオ					○			
427			コアカソ			○	○	○	○	○	○
428			ウワバミソウ		○		○		○		○
429			ムカゴイラクサ					○	○		○
430			カテンソウ	○	○		○			○	
431			ミズ							○	○
432			アオミズ			○	○	○	○	○	○
433			イラクサ	○	○	○	○	○	○	○	○
434	バラ科	バラ科	ヒメキンミズヒキ					○		○	○
435			キンミズヒキ	○	○	○	○	○	○	○	○
436			ヤマザクラ	○	○	○	○	○	○	○	○
437			オオシマザクラ	○	○	○	○	○	○	○	○
438			クサボケ				○				
439			ビワ		○		○		○		○
440			ダイコンソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
441			ヤマブキ	○	○		○		○		○
442			コゴメウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
443			イヌザクラ			○	○			○	○
444			ウワミズザクラ				○		○		○
445			カナメモチ属				○				
446			ヘビイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
447			ヤブヘビイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
448			カマツカ	○	○	○	○	○	○	○	○
449			ウメ						○		
450			モモ				○				

表 5.2-30(10) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
451	真正双子葉類	バラ科	カザンデマリ			○					
452			シャリンバイ			○					
453			テリハノイバラ	○		○		○			
454			ノイバラ	○	○	○	○	○	○	○	○
455			アズマイバラ	○	○	○	○	○	○	○	○
456			フユイチゴ	○	○	○	○		○	○	○
457			クサイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
458			モミジイチゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
459			ナワシロイチゴ	○	○	○		○			
460			カジイチゴ	○		○		○			
461			ユキヤナギ		○	○		○		○	○
462		ブナ科	クリ		○				○		
463			スダジイ	○	○	○	○	○	○	○	○
464			マテバシイ	○		○	○	○	○		
465			アカガシ	○	○	○	○	○	○	○	○
466			クヌギ	○	○	○	○	○	○		
467			アラカシ	○	○	○	○	○	○		
468			シラカシ	○	○	○	○	○	○		
469			ウバメガシ			○		○			
470			ウラジロガシ		○			○			
471			コナラ	○	○	○	○	○	○	○	○
472	クルミ科		ヒメグルミ							○	
473			オニグルミ		○		○		○		
474	カバノキ科		ヤマハンノキ		○		○		○		
475			ハンノキ					○		○	
476			オオバヤシャブシ	○	○		○	○	○	○	
477			クマシデ				○		○		
478			イヌシデ				○	○	○	○	
479	ウリ科		セイヨウカボチャ							○	
480			オキナワスズメウリ							○	
481			アマチャヅル		○	○	○	○	○	○	○
482			カラスウリ			○	○	○	○	○	○
483			キカラスウリ							○	
484			スズメウリ					○	○	○	○
485	ニシキギ科		ツルウメモドキ		○	○	○	○	○	○	○
486			イヌツルウメモドキ			○	○				○
487			オニツルウメモドキ				○				
488			コマユミ								○
489			ツルマサキ		○		○		○		○
490			マサキ	○	○	○	○	○	○	○	○
491			ツルオオバマサキ		○				○		
492			マユミ	○	○	○	○	○	○	○	○
493			カントウマユミ			○					
494	カタバミ科		イモカタバミ			○			○	○	○
495			ハナカタバミ				○				
496			ベニカタバミ		○		○				
497			カタバミ	○	○		○	○	○	○	○
498			ウスアカカタバミ		○	○	○		○		
499			アカカタバミ	○	○				○		
500			ムラサキカタバミ				○		○	○	○

表 5.2-30(11) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
501	真正双子葉類	カタバミ科	オッタチカタバミ	○	○	○	○	○	○	○	○
502			エノキグサ				○	○	○	○	○
503			トウダイグサ		○		○				
504			ニシキソウ								○
505			コニシキソウ				○	○	○		○
506			オオニシキソウ						○		○
507			ハイニシキソウ				○		○		○
508			ナツトウダイ	○	○	○	○	○	○		○
509			アカメガシワ	○	○	○	○	○	○	○	○
510			ナンキンハゼ						○		
511			アブラギリ				○	○	○		○
512		コミカンソウ科	コミカンソウ				○		○		
513			ナガエコミカンソウ								○
514	スミレ科	タチツボスミレ	タチツボスミレ	○	○	○	○	○	○	○	○
515			アオイスミレ						○		
516			コスミレ		○		○		○		
517			スミレ				○				○
518		フウロソウ科	ニオイタチツボスミレ	○							
519			アメリカフウロ	○	○	○	○		○		○
520			ゲンノショウコ		○	○	○	○	○	○	○
521	ミソハギ科	ヒメミソハギ							○		
522		ミソハギ	○						○		
523		キカシグサ							○		○
524		アカバナ科	ミズタマソウ			○	○		○		○
525			チョウジタデ						○		○
526			ウスグチヨウジタデ						○		
527			メマツヨイグサ	○	○	○	○	○	○	○	○
528			コマツヨイグサ				○		○		○
529			ユウゲショウ			○	○		○		○
530			ヒルザキツキミソウ			○			○		
531		ミツバウツギ科	ゴンズイ			○	○	○	○	○	○
532	キブシ科	キブシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
533		ウルシ科	ヌルデ	○	○	○	○	○	○	○	○
534			ハゼノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
535	ムクロジ科	トウカエデ	トウカエデ				○				○
536			カジカエデ						○		
537			イロハモミジ	○	○	○	○	○	○	○	○
538			イタヤカエデ (広義)				○		○		○
539			エンコウカエデ								○
540			オニイタヤ		○						
541		ミカン科	マツカゼソウ				○		○		○
542			ユズ				○				
543			ナツミカン		○		○		○		○
544			コクサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
545			カラスザンショウ	○	○	○	○	○	○	○	○
546			サンショウ	○	○	○	○	○	○	○	○
547			イヌザンショウ			○		○			
548	ニガキ科	ニワウルシ				○		○		○	
549		ニガキ		○		○		○		○	
550	センダン科	センダン				○		○		○	

表 5.2-30(12) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
551	真正双子葉類	アオイ科	アオギリ	○	○				○		
552			フヨウ				○	○			○
553			ムクゲ				○		○		○
554			ヤノネボンテンカ		○		○		○		○
555		ジンチョウゲ科	オニシバリ	○	○	○	○	○	○	○	○
556			ヤマハタザオ				○				
557			カラシナ		○		○				
558			セイヨウアブラナ	○							
559			ナズナ	○	○		○				
560			ミチタネツケバナ	○	○		○				
561			ジャニンジン	○	○	○	○				
562			タネツケバナ	○	○						○
563			オオバタネツケバナ		○	○					
564			ワサビ				○				
565			カラクサナズナ						○		
566			マメグンバイナズナ				○		○		○
567			オランダガラシ		○		○		○		○
568			ショカツサイ		○		○				
569			ダイコン				○				
570			ミチバタガラシ				○				
571			イヌガラシ		○	○	○			○	
572			スカシタゴボウ		○						
573	タデ科	タデ科	イタドリ	○	○	○	○		○	○	○
574			ケイタドリ					○	○	○	
575			ツルドクダミ		○	○	○	○	○		○
576			ヒメツルソバ		○		○		○		○
577			ミズヒキ		○	○	○	○	○	○	○
578			ギンミズヒキ						○		○
579			シロバナサクラタデ						○	○	○
580			オオイヌタデ						○		○
581			イヌタデ						○	○	○
582			サクラタデ								○
583			イシミカワ				○	○	○		○
584			ハナタデ		○			○	○	○	○
585			ボントクタデ							○	
586			ママコノシリヌグイ								○
587			オオミゾソバ							○	
588			ミゾソバ		○	○	○		○	○	○
589			ミチヤナギ						○		○
590			スイバ	○	○	○	○		○		
591			アレチギシギシ	○	○	○	○	○	○		○
592			ナガバギシギシ	○	○	○	○		○		
593			ギシギシ		○		○			○	
594			エゾノギシギシ				○				
595			ノハラダイオウ							○	
596			ヒヨウタンギシギシ								○
597	ナデシコ科	ナデシコ科	ノミノツヅリ					○			
598			オランダミミナグサ	○	○	○	○		○		○
599			ツメクサ		○		○	○	○		
600			ハマツメクサ				○				

表 5.2-30(13) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
601	真正双子葉類	ナデシコ科	シロバナマンテマ				○				
602			イタリーマンテマ						○		
603			マンテマ	○							
604			ウシハコベ	○	○	○	○	○	○	○	○
605			サワハコベ		○		○		○		○
606			コハコベ	○	○	○	○				
607			ミドリハコベ	○	○	○	○		○		
608			ノミノフスマ		○		○		○		○
609		ヒュ科	イノコヅチ				○	○	○	○	○
610			ヒナタイノコヅチ		○	○	○		○	○	○
611			ホナガアオゲイトウ							○	
612			シロザ						○		○
613			アカザ					○			
614			アリタソウ					○	○	○	
615			ゴウシュウアリタソウ							○	
616	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ			○	○	○	○	○	○	○
617		オシロイバナ科	オシロイバナ			○		○		○	○
618		ザクロソウ科	ザクロソウ							○	
619		スペリヒュ科	スペリヒュ				○		○		○
620		ミズキ科	ミズキ		○	○	○	○	○	○	
621			クマノミズキ	○		○	○	○	○	○	○
622		アジサイ科	ウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
623			ヒメウツギ		○		○		○	○	○
624			マルバウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
625			アジサイ		○		○		○		
626			ヤマアジサイ				○		○		○
627			タマアジサイ			○	○	○	○	○	○
628		ツリフネソウ科	ツリフネソウ							○	
629	サカキ科	サカキ							○	○	
630			ヒサカキ	○	○	○	○	○	○	○	○
631			モッコク				○				
632		カキノキ科	カキノキ		○	○	○		○		○
633			マメガキ					○			
634	サクラソウ科	マンリョウ	○	○	○	○		○		○	
635		カラタチバナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
636		ヤブコウジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
637		ギンレイカ		○		○		○		○	
638		オカトラノオ			○	○		○		○	
639		コナスビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
640		イズセンリョウ		○		○		○		○	
641		ツバキ科	ヤブツバキ	○	○	○	○		○	○	○
642			サザンカ		○		○		○		
643			チャノキ		○				○		○
644			エゴノキ	○		○	○	○	○	○	○
645	マタタビ科	ウラジロマタタビ			○	○	○	○	○	○	○
646		キウイフルーツ			○		○	○	○		○
647		マタタビ				○		○		○	
648		ツツジ科	イチヤクソウ		○	○			○		
649			ヤマツツジ		○		○		○		○
650			アオキ科	アオキ	○	○	○	○	○	○	○

表 5.2-30(14) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
651	真正双子葉類	アオキ科	フイリアオキ	○	○			○	○		
652			ヒメヨツバムグラ					○	○		○
653		アカネ科	ヤマムグラ		○	○	○		○		○
654			ヤエムグラ	○	○	○	○		○		○
655			ヨツバムグラ		○		○	○	○		○
656			ハシカグサ						○		○
657			ヘクソカズラ	○		○	○	○	○	○	○
658			アカネ	○	○	○	○	○	○	○	○
659		マチン科	ホウライカズラ		○		○		○		○
660			シタキソウ					○		○	
661		キヨウチクトウ科	キジョラン		○	○	○		○		○
662			ガガイモ			○			○		
663			キヨウチクトウ						○		
664			ティカカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
665			ツルニチニチソウ		○	○	○	○	○	○	○
666			ヒメツルニチニチソウ	○	○		○		○	○	
667			オオカモメヅル				○		○		
668		ヒルガオ科	コヒルガオ			○	○	○	○		○
669			ヒルガオ			○	○		○		○
670			ネナシカズラ								○
671			アオイゴケ				○		○		○
672			マルバナルコウ								○
673			アメリカアサガオ						○		
674			マルバアメリカアサガオ								○
675			ノアサガオ						○		
676			アサガオ								○
677		ナス科	ヤマホオズキ								○
678			クコ	○	○		○		○		○
679			イガホオズキ					○		○	
680			ホオズキ					○			
681			テリミノイヌホオズキ					○			
682			ヒヨドリジヨウゴ	○		○	○	○	○	○	○
683			マルバノホロシ					○			○
684			オオイヌホオズキ		○		○	○	○	○	○
685			アメリカイヌホオズキ	○					○	○	
686			ハダカホオズキ				○		○	○	○
687		ムラサキ科	ホタルカズラ	○	○	○	○		○		○
688			ハナイバナ	○	○	○	○		○		
689			ヤマルリソウ		○		○		○		○
690			コンフリー				○				
691			キュウリグサ	○	○	○	○		○		○
692		モクセイ科	シナレンギョウ							○	
693			シマトネリコ						○		○
694			マルバアオダモ					○		○	
695			ネズミモチ	○	○		○		○	○	○
696			トウネズミモチ	○	○	○	○	○	○	○	○
697			イボタノキ	○	○	○	○	○	○	○	○
698			オカイボタ	○	○	○	○	○	○		○
699			オオバイボタ	○	○		○		○	○	○
700			シナイボタ				○				○

表 5.2-30(15) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
701	真正双子葉類	モクセイ科	ミウライボタ				○		○		○
702			ヒイラギ				○				○
703		オオバコ科	ケイワタバコ		○				○		○
704			ツタバウンラン				○		○		
705			ジギタリス				○				
706			オオバコ	○	○	○	○	○	○	○	○
707			ヘラオオバコ		○		○		○		
708			ツボミオオバコ	○	○	○	○				
709			オオカワデシャ		○				○		
710			タチイヌノフグリ	○		○	○				
711			フラサバソウ	○	○	○	○				
712			ムシクサ		○		○				
713			オオイヌノフグリ	○	○	○	○		○	○	○
714	アゼナ科	アメリカアゼナ							○		○
715		アゼナ							○		○
716		ウリクサ									○
717	シソ科	キランソウ	○	○	○	○		○			○
718		ムラサキシキブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
719		オオムラサキシキブ				○	○	○	○	○	○
720		ヤブムラサキ									○
721		タニジヤコウソウ				○					○
722		ボタンクサギ				○		○			○
723		クサギ			○	○	○	○	○	○	○
724		トウバナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
725		イヌトウバナ									○
726		カキドオシ	○	○	○	○		○	○	○	○
727		ヤマハッカ			○	○	○	○	○	○	○
728		ホトケノザ	○	○		○					
729		ヒメオドリコソウ	○	○		○					○
730		コシロネ							○		○
731		ハッカ									○
732		マルバハッカ		○		○		○		○	○
733		ヒメジソ									○
734		イヌコウジュ					○		○		
735		レモンエゴマ									○
736		アオジソ							○		
737		アカジソ				○		○			
738		エゴマ						○	○	○	○
739		アキノタムラソウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
740		オカタツナミソウ			○	○	○				
741		コバノタツナミ		○	○	○	○	○	○	○	○
742		ツルニガクサ		○	○	○	○	○	○	○	○
743		カリガネソウ							○		○
744	サギゴケ科	トキワハゼ					○	○			○
745		ハエドクソウ				○	○	○	○		
746		ナガバハエドクソウ						○	○		○
747		キリ科	キリ				○	○	○		
748		ハマウツボ科	ヤセウツボ				○	○	○		
749			コシオガマ								○
750		キツネノマゴ科	ハアザミ					○		○	

表 5.2-30(16) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
751	真正双子葉類	キツネノマゴ科	キツネノマゴ					○	○	○	○
752		ノウゼンカズラ科	ノウゼンカズラ				○		○		○
753		クマツヅラ科	シチヘンゲ		○				○		○
754			ヒメイワダレソウ				○				
755			ヤナギハナガサ						○		○
756			アレチハナガサ			○	○	○	○		○
757		ハナイカダ科	ハナイカダ	○	○		○	○	○	○	○
758		モチノキ科	イヌツゲ		○	○			○	○	○
759			モチノキ		○	○			○	○	○
760			クロガネモチ	○	○	○	○	○	○	○	○
761		キキョウ科	ツリガネニンジン	○	○	○	○	○	○	○	○
762			ヤマホタルブクロ					○	○		
763			ホタルブクロ	○	○		○	○	○	○	○
764			ツルギキョウ				○		○		○
765			ツルニンジン	○		○	○	○	○		
766			ミゾカクシ				○		○		○
767			タニギキョウ		○		○				
768			ヒナキキョウソウ				○				
769			キキョウソウ				○				
770			アサザ				○		○		
771		キク科	ノブキ		○	○	○		○		○
772			オカダイコン						○		○
773			マルバフジバカマ							○	
774			キッコウハグマ				○		○		
775			ブタクサ					○	○		○
776			オオブタクサ			○	○	○	○	○	○
777			ゴボウ				○				
778			ヨモギ	○	○	○	○	○	○	○	○
779			シロヨメナ	○	○	○	○	○	○	○	○
780			ノコンギク		○		○				○
781			アキハギク								○
782			シュウブンソウ	○	○	○	○		○		○
783			カントウヨメナ				○		○	○	○
784			オケラ			○	○		○		○
785			アメリカセンダングサ			○	○	○	○	○	○
786			コセンダングサ		○	○	○	○	○	○	○
787			ヤブタバコ	○	○	○	○	○	○	○	○
788			コヤブタバコ								○
789			ガンクビソウ		○	○	○		○	○	○
790			トキンソウ						○		○
791			リュウノウギク		○		○		○		○
792			イガアザミ							○	○
793			ノアザミ			○	○		○		
794			ノハラアザミ		○						
795			ナンブアザミ					○	○	○	○
796			アメリカオニアザミ		○		○		○		○
797			オオキンケイギク		○		○		○		
798			ハルシャギク	○		○		○	○		○
799			コスモス						○		
800			ベニバナボロギク					○	○	○	○

表 5.2-30(17) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
801	真正双子葉類	キク科	ヤクシソウ	○		○	○	○	○	○	
802			アメリカタカサブロウ					○			○
803			タカサブロウ					○		○	
804			ダンドボロギク					○	○		○
805			ヒメジョオン	○	○	○	○	○	○	○	○
806			アレチノギク	○	○		○				
807			ヒメムカシヨモギ	○	○			○		○	○
808			ペラペラヨメナ			○		○			
809			ハルジオン	○	○	○	○	○	○	○	○
810			オオアレチノギク	○	○	○	○	○	○	○	○
811			オオヒヨドリバナ			○	○	○	○	○	○
812			ツワブキ	○	○		○		○		○
813			ハキダメギク			○	○	○	○	○	○
814			ホソバノチチコグサモドキ			○	○				
815			ウラジロチチコグサ	○	○	○	○	○	○		○
816			チチコグサモドキ			○		○			
817			ウスベニチチコグサ			○					
818			チチコグサ					○			
819			キクイモ				○		○		○
820			キクイモモドキ					○			
821			キツネアザミ			○	○				
822			ブタナ	○		○	○	○	○		
823			オグルマ		○			○			○
824			ニガナ	○		○	○		○	○	○
825			ハナニガナ				○				
826			オオジシバリ	○	○	○	○				○
827			イワニガナ				○		○		○
828			アキノノゲシ	○	○	○	○	○	○	○	○
829			トゲチシャ						○		
830			コオニタビラコ		○						○
831			ヤブタビラコ	○	○	○	○	○	○		○
832			センボンヤリ		○				○		○
833			ノースポールギク						○		
834			ムラサキニガナ	○	○	○	○	○	○		○
835			モミジガサ				○				
836			ナガバノコウヤボウキ				○				○
837			カシワバハグマ								○
838			コウヤボウキ		○	○	○		○		○
839			フキ	○	○	○	○	○	○	○	○
840			コウゾリナ		○		○		○		○
841			ハハコグサ		○				○		○
842			キヌガサギク						○		
843			ノボロギク		○						
844			コメナモミ								○
845			メナモミ								○
846			セイタカアワダチソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
847			オニノゲシ	○	○	○	○		○		○
848			ノゲシ	○	○	○	○	○	○		○
849			ヒロハホウキギク								○
850			セイヨウタンポポ	○	○	○	○	○	○		○

表 5.2-30(18) 現地調査により確認された植物

No.	分類	科名	種名	確認時期							
				早春季		春季		夏季		秋季	
				内	外	内	外	内	外	内	外
851	真正双子葉類	キク科	カントウタンポポ	○	○	○	○				
852			オオオナモミ		○						○
853			アカオニタビラコ	○	○		○				
854			アオオニタビラコ	○	○	○	○		○		○
855		トベラ科	トベラ	○	○	○	○	○	○	○	○
856			ウド			○	○	○	○	○	
857			タラノキ		○	○	○	○	○	○	○
858			カクレミノ	○	○		○		○		○
859			オカウコギ	○	○	○	○	○	○	○	○
860			ヤマウコギ						○		
861	ウコギ科	ヤツデ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
862		カナリーキヅタ				○				○	
863		キヅタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
864		オオバチドメ		○							
865		ノチドメ	○			○	○			○	
866		オオチドメ			○	○	○	○	○	○	○
867		チドメグサ		○		○				○	
868		ハリギリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
869		セリ科	ノダケ		○	○	○				○
870			アシタバ			○					
871			シャク	○	○	○	○				
872			ツボクサ			○		○	○		○
873			ウシミツバ	○	○	○	○				
874			ミツバ	○	○	○	○	○	○	○	○
875			マツバゼリ			○		○			
876			セリ	○	○	○	○	○	○	○	○
877			ヤブニンジン	○	○	○	○		○		
878			ウマノミツバ	○	○	○	○	○	○	○	○
879			ヤブジラミ	○	○	○	○				
880			オヤブジラミ	○	○	○	○				
881	ガマズミ科	ニワトコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
882		ガマズミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
883		コバノガマズミ								○	
884		サンゴジュ		○		○	○	○	○		○
885		ヤブデマリ				○		○			
886		スイカズラ科	ツクバネウツギ		○		○		○		○
887			ウグイスカグラ	○	○	○	○	○	○		○
888			スイカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
889			オトコエシ				○	○	○	○	○
890			ツルカノコソウ	○	○	○	○	○	○	○	○
891			ハコネウツギ	○	○	○	○	○	○	○	○
計	7分類	135科	891種	274種	423種	357種	611種	340種	630種	298種	575種

注1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度版）」(河川環境データベースHP)に従った。

注2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

## ⑥ 調査結果（聞き取り調査）

聞き取り調査により確認された植物種は表 5.2-31 に示すとおりである。

聞き取り調査の結果、葉山町上山口寺前谷戸周辺では、2科3種の植物種を聴取した。

表 5.2-31 聞き取り調査により確認された植物種

No.	分類	科名	種名
1	単子葉類	ラン科	シュンラン
2			コクラン
3	真正双子葉類	シソ科	カリガネソウ
計	2分類	2科	3種

注) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

## (2) 植生

### ① 調査事項

現存植生、群落構造、潜在自然植生とした。

### ② 調査方法

#### ア 現存植生

既存資料調査及び現地調査により把握した。植物社会学的手法（ブラウンーブランケの全推定法）により、調査地域の群落単位を決定して植物社会学的な位置づけを明らかにし、航空写真等を参考として現存植生図を作成した。また、「第2回自然環境保全基礎調査報告書」環境庁編（1982）及び「(お知らせ) 1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」（生物多様性センター、平成28年）に準じて自然度を判定し、植生自然度図も作成した。

#### イ 群落構造

調査範囲内において、代表的及び保全上注目される特徴的な林分については、調査区内の植物の種類、高さ、胸高直径等を調査し、種構成、階層構造を基に群落断面図を作成して、植物群落の現況や将来的な遷移の方向性を把握した。

なお、仮設ヘリポートについては、東京南線3,4号線と同様の植生であり、植物群落の現況や将来的な遷移の方向性も概ね同じであると考えられることから、新たにコドラー地点は設けなかった。

#### ウ 潜在自然植生

「ア 現存植生」の調査結果を基に、代償植生の中に局所的に残存している自然植生の分布と立地条件を把握して、潜在自然植生図を作成した。

### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲は、「(1) 植物相」と同様（図5.2-3(1)～(2)参照）の範囲とした。

### ④ 調査時期、期間又は時間帯

調査時期及び頻度は、表5.2-32(1)～(2)に示す期日で2回実施した。

表5.2-32(1) 植生調査時期及び調査期日（東京南線3,4号線）

項目	時期	期日
植生 (ア 現存植生、イ 群落構造、ウ 潜在自然植生)	夏季	令和6年7月22日～26日

表 5.2 表 5.2-32(2) 植生調査時期及び調査期日（仮設ヘリポート）

項目	時期	期日
植生 (ア現存植生、イ群落構造、ウ潜在自然植生)	秋季	令和 6 年 11 月 6 日

## ⑤ 調査結果

### ア 現存植生

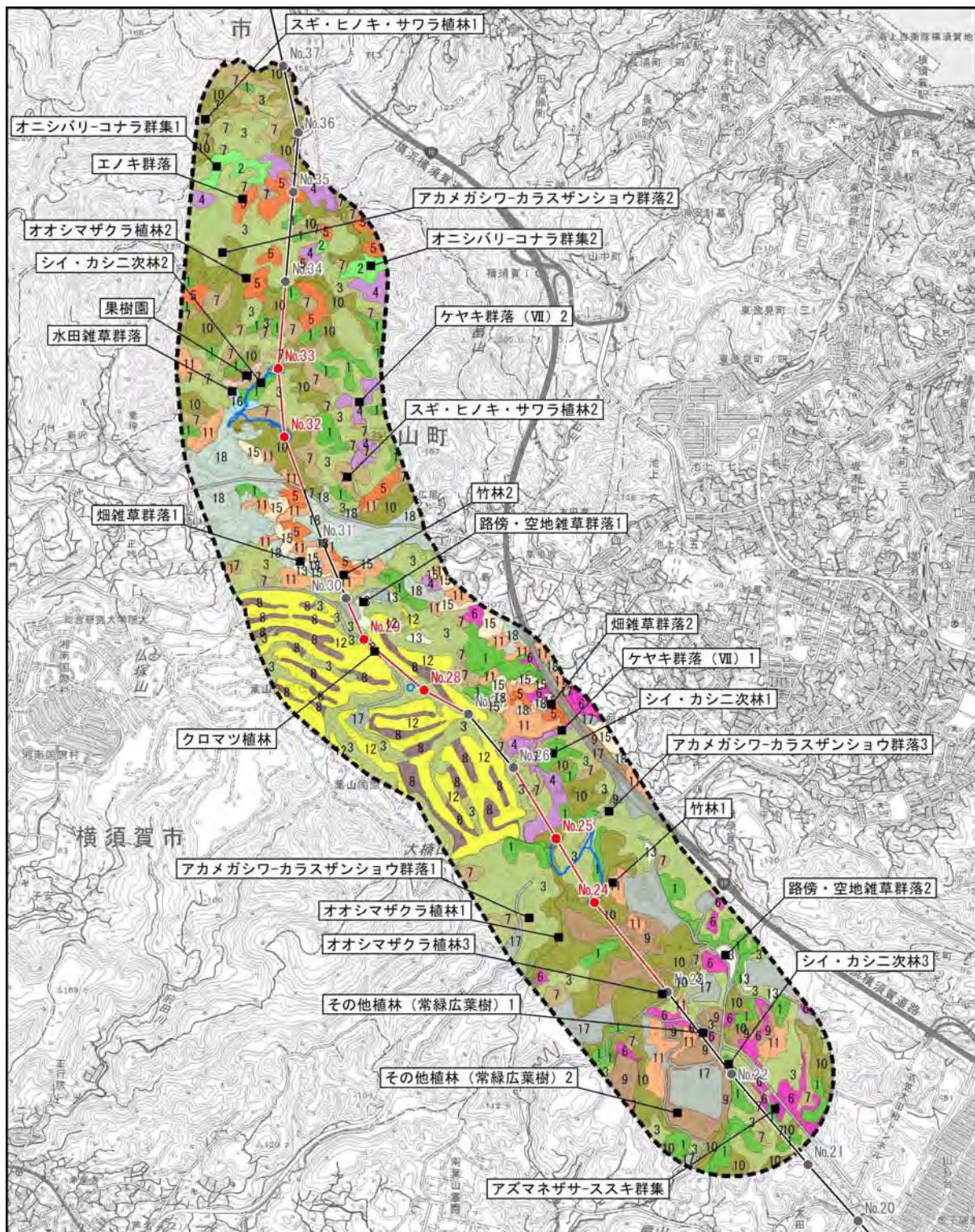
#### (a) 現存植生の概況

現地調査の結果を基に、現存植生を分類した。植生の凡例は表 5.2-33 に、現存植生図は図 5.2-4(1)～(2)に示すとおりである。また、植生区分の占有する面積は表 5.2-34 に示すとおりである。

現地調査の結果、調査範囲内の現存植生を 18 区分に分類した。最も占有しているのは「アカメガシワ-カラスザンショウ群落」であり、全体の 25.74% を占めていた。次いで「オオシマザクラ植林」が 14.30%、「ゴルフ場・芝地」が 8.11%、「シイ・カシ二次林」が 7.40% と続いた。実施区域内では、「アカメガシワ-カラスザンショウ群落」が最も大きい面積であったが、全体と比較すると 0.13% 程度の面積であった。

表 5.2-33 現存植生図の凡例

図中色	群落名
1	シイ・カシ二次林
2	オニシバリ-コナラ群集
3	アカメガシワ-カラスザンショウ群落
4	ケヤキ群落(VII)
5	エノキ群落
6	アズマネザサ-ススキ群集
7	スギ・ヒノキ・サワラ植林
8	クロマツ植林
9	その他植林(常緑広葉樹)
10	オオシマザクラ植林
11	竹林
12	ゴルフ場・芝地
13	路傍・空地雑草群落
14	果樹園
15	畑雑草群落
16	水田雑草群落
17	市街地等
18	緑の多い住宅地



### 凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 実施区域の工事用地
- 植生の調査範囲
- 植生のコドラート地点

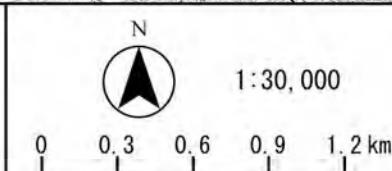
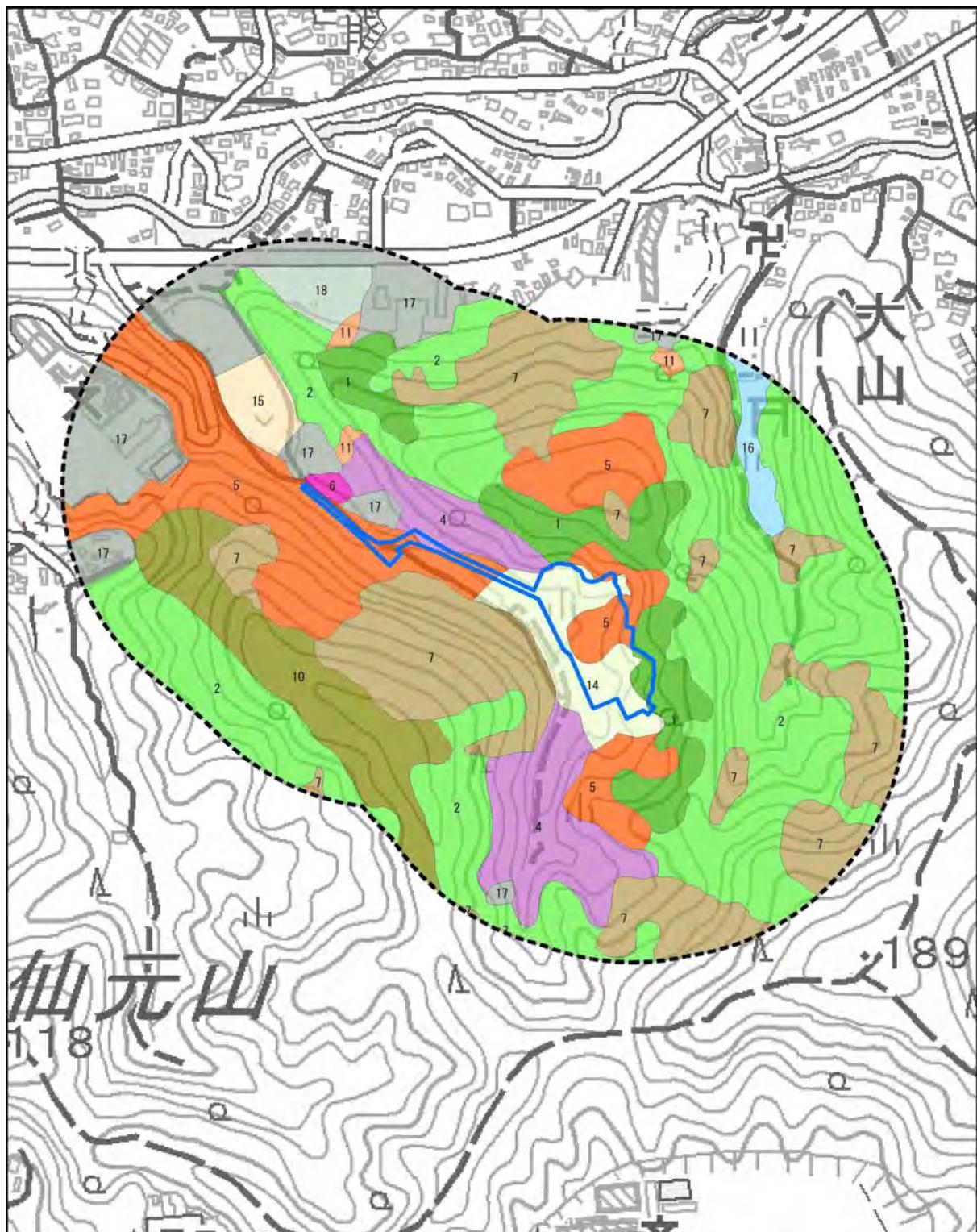


図 5.2-4(1) 現存植生図



凡 例

■ 実施区域の工事用地

○ 植物の調査範囲



1:5,000

0 50 100 150 200m

図 5.2-4(2) 現存植生図

表 5.2-34 植生区分別面積

No.	群落名	実施区域				全体	
		内		外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
1	シイ・カシ二次林	0.20	0.03	44.51	7.36	44.71	7.40
2	オニシバリーコナラ群集	0	-	14.92	2.47	14.92	2.47
3	アカメガシワーカラスザンショウ群落	0.80	0.13	154.84	25.61	155.64	25.74
4	ケヤキ群落 (VII)	0.02	<0.01	16.37	2.71	16.40	2.71
5	エノキ群落	0.29	0.05	19.61	3.24	19.90	3.29
6	アズマネザサーススキ群集	0	-	12.10	2.00	12.10	2.00
7	スギ・ヒノキ・サワラ植林	0.18	0.03	45.17	7.47	45.36	7.50
8	クロマツ植林	0	-	16.05	2.66	16.06	2.66
9	その他植林 (常緑広葉樹)	0	-	22.90	3.79	22.90	3.79
10	オオシマザクラ植林	0.69	0.11	85.78	14.19	86.47	14.30
11	竹林	0	-	28.20	4.66	28.20	4.66
12	ゴルフ場・芝地	0	-	49.00	8.11	49.00	8.11
13	路傍・空地雑草群落	0.45	0.08	4.28	0.71	4.73	0.78
14	果樹園	0	-	0.84	0.14	0.84	0.14
15	畑雑草群落	0	-	10.28	1.70	10.28	1.70
16	水田雑草群落	0.02	<0.01	1.19	0.20	1.21	0.20
17	市街地等	0.02	<0.01	41.97	6.94	41.99	6.95
18	緑の多い住宅地	0.05	0.01	33.78	5.59	33.83	5.60
	合計	2.74	0.45	601.80	99.55	604.54	100.00

注) 表中の数値は小数点第三位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

### (b) 植生自然度の概要

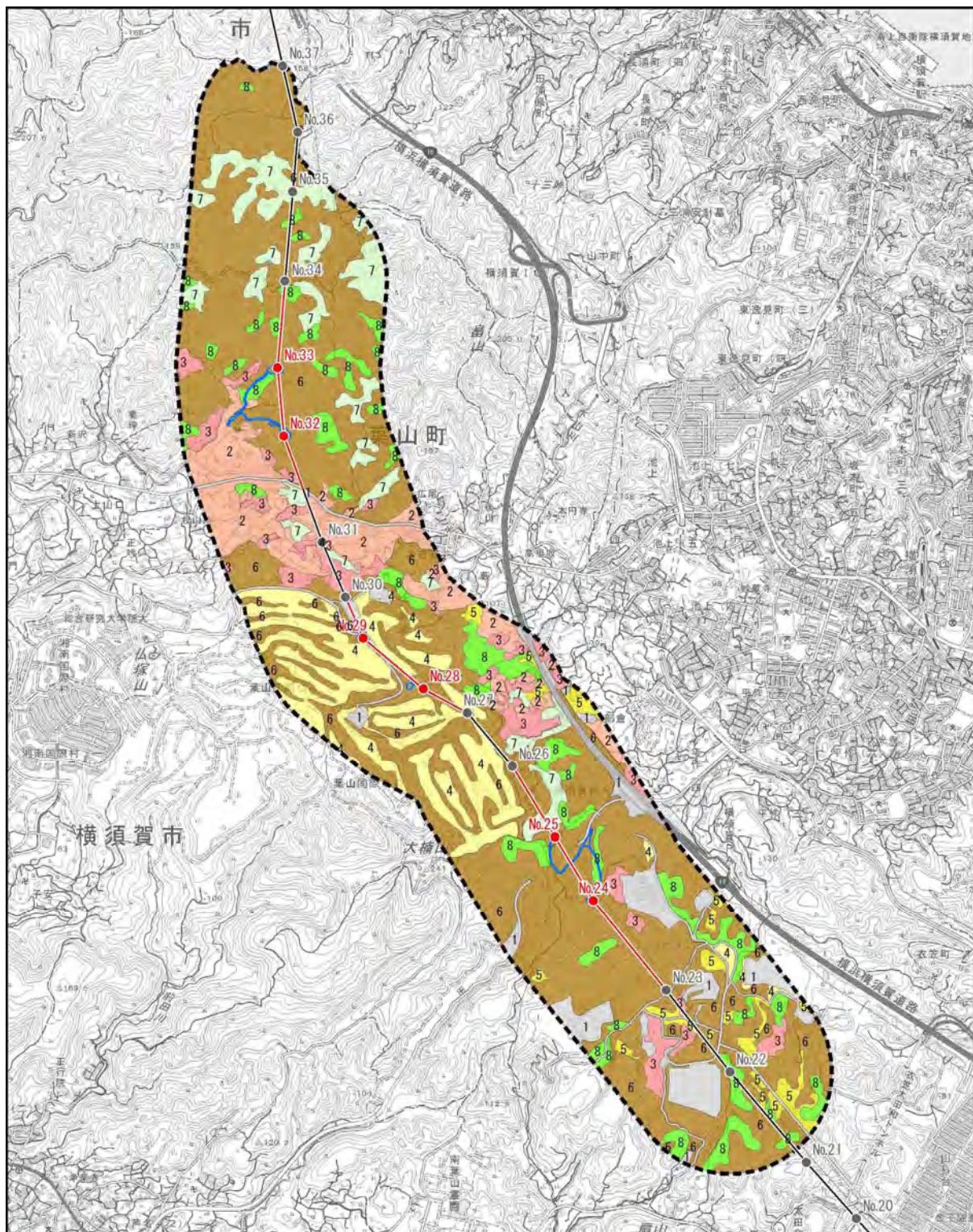
「第2回自然環境保全基礎調査報告書」環境庁編（1982）及び「(お知らせ) 1/2.5万植生図の新たな植生自然度について」（生物多様性センター、平成28年）により、調査範囲の現存植生について植生自然度を区分した。各群落の植生自然度は表5.2-35に、植生自然度図は図5.2-5(1)～(2)に示すとおりである。また、植生自然度の面積は表5.2-36に示すとおりである。

現地調査の結果、植生自然度は8区分に分類された。最も占有しているのは自然度6の「植林地」であり、全体の半分以上を占めていた。次いで自然度4の「二次草原（背の低い草原）」が8.85%、自然度7の「二次林」が8.47%、自然度2の「外来種草原農耕地（水田・畑）」が7.67%と続いた。実施区域内では、自然度6の「植林地」が最も大きい面積であったが、全体と比較すると0.28%程度の面積であった。

表5.2-35 植生自然度の区分及び凡例

図中色 植生自然度	区分内容	該当する群落名
8	二次林(自然林に近いもの)	シイ・カシ二次林
7	二次林	オニシバリーコナラ群集
		ケヤキ群落（VII）
		エノキ群落
6	植林地	アカメガシワーカラスザンショウ群落
		スギ・ヒノキ・サワラ植林
		クロマツ植林
		その他植林（常緑広葉樹）
		オオシマザクラ植林
5	二次草原(背の高い草原)	アズマネザーススキ群集
4	二次草原(背の低い草原)	ゴルフ場・芝地
		路傍・空地雑草群落
3	外来種植林農耕地(樹園地)	竹林
		果樹園
2	外来種草原農耕地(水田・畑)	畑雜草群落
		水田雜草群落
		緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地等

資料：「(お知らせ) 1/2.5万植生図の新たな植生自然度について」（生物多様性センター、平成28年）



凡 例

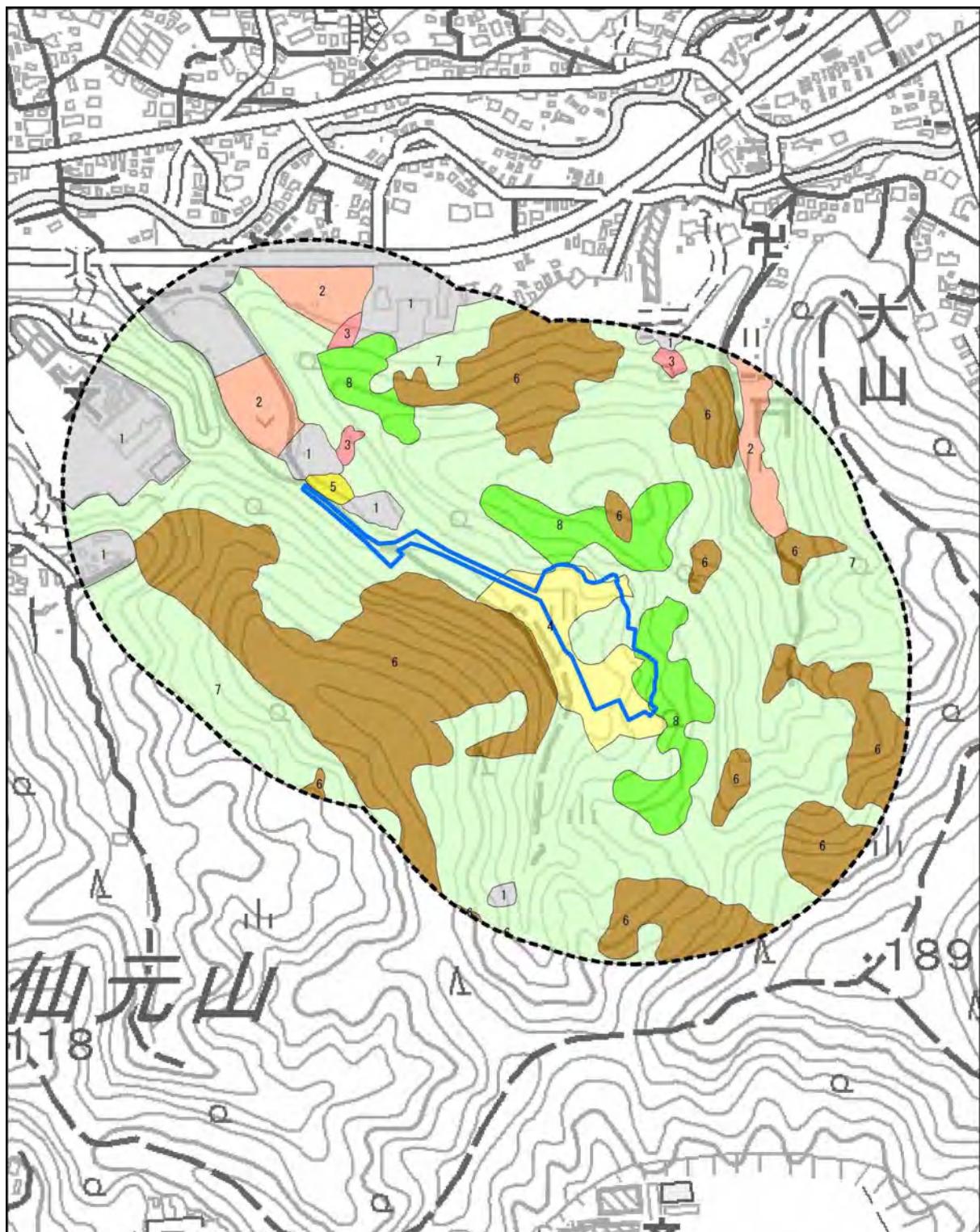
- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 実施区域の工事用地
- 植物の調査範囲



1:30,000

0 0.3 0.6 0.9 1.2 km

図 5.2-5(1) 植生自然度図



凡 例

■ 実施区域の工事用地

○ 植物の調査範囲



1:5,000

0 50 100 150 200m

図 5.2-5(2) 植生自然度図

表 5.2-36 植生自然度の占有面積

植生自然度	実施区域				全体	
	内		外			
	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
8	0.20	0.03	44.51	7.36	44.71	7.40
7	0.32	0.05	50.91	8.42	51.22	8.47
6	1.68	0.28	324.74	53.72	326.42	53.99
5	0	-	12.10	2.00	12.10	2.00
4	0.45	0.08	53.04	8.77	53.49	8.85
3	0	-	28.26	4.68	28.26	4.68
2	0.07	0.01	46.28	7.66	46.34	7.67
1	0.02	0.00	41.97	6.94	41.99	6.95
合計	2.74	0.45	601.80	99.55	604.54	100.00

注) 表中の数値は小数点第三位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

## イ 群落構造

調査範囲に分布する群落構造について、群落構造の概要を以下に整理した。また、各群落の断面図は、図 5.2-6(1)～(15)に示すとおりである。

なお、コドラート調査地点における、コドラート調査結果は資料編に示した。

### (a) シイ・カシ二次林

主に調査範囲内の尾根及び斜面上部に点在する常緑広葉樹林で、占有率は 7.40% であった。高木の大半が萌芽再生しており、以前は薪炭林として利用されていたと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、単木では 77cm のアカガシ、株立ちでは 52cm、50cm、46cm のアカガシであった。

群落高は 9～20m 程度であり、高木層にスダジイ、アカガシ、タブノキ等が優占した。亜高木層は疎らでアカガシ、シロダモ、イヌビワ等が見られた。低木層はシロダモ、アオキ、ヒサカキ、ヤブツバキが混生した。草本層はベニシダ、ヤブラン、ティカカズ等が見られた。低木及び草本層は耐陰性の強い種が多く見られた。

なお、いずれのシイ・カシ二次林もナラ枯れが確認され、立ち枯れや倒木が目立った。

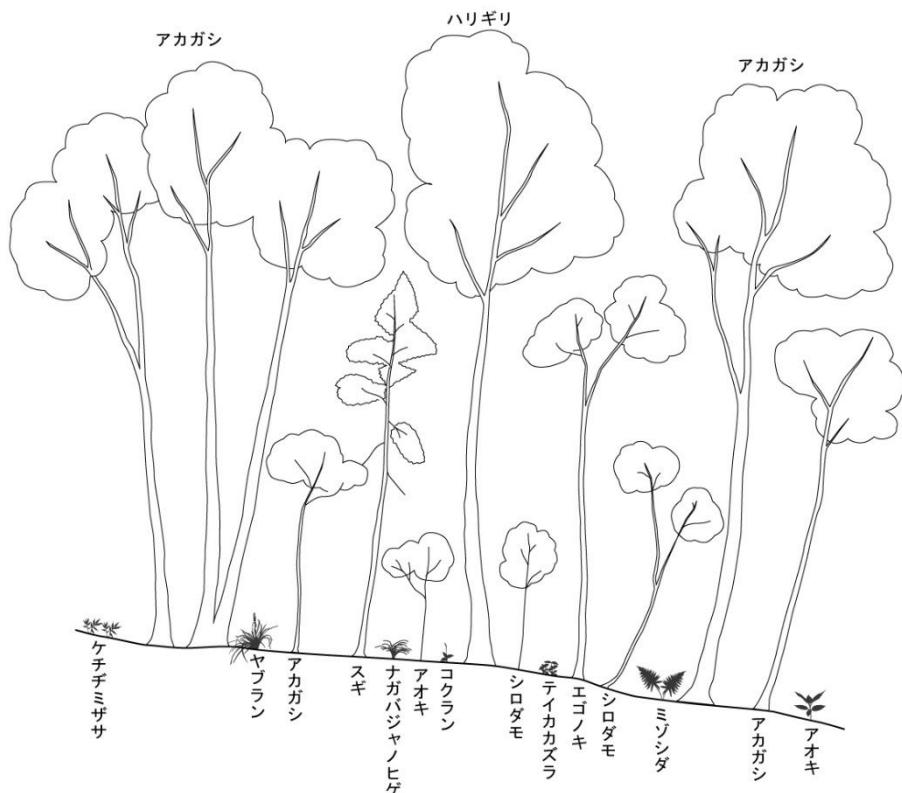


図 5.2-6(1) シイ・カシ二次林

(b) オニシバリーコナラ群集

主に調査範囲内の森戸川源流域の尾根部から斜面上部に分布する夏緑広葉樹林で、占有率は 2.47% とわずかであった。本来は調査範囲内に広く分布したと考えられるが、ナラ枯れの影響で減少したと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、51cmのコナラであった。

群落高は9~18m程度であり、高木層にコナラ、クヌギが優占した。亜高木層は疎らでヤブニッケイ、オオシマザクラ、コナラ等が見られた。低木層はアオキ、シロダモ、ヤブニッケイ等が優占した。草本層はナガバジャノヒグ、アズマネザサ、ティカカズ等が優占した。林床が明るいため、低木及び草本層の植被率は高い傾向が見られた。

なお、オニシバリーコナラ群集及び各植生内で見られるコナラ及びクヌギには、全体的にナラ枯れによる立ち枯れや倒木が目立った。

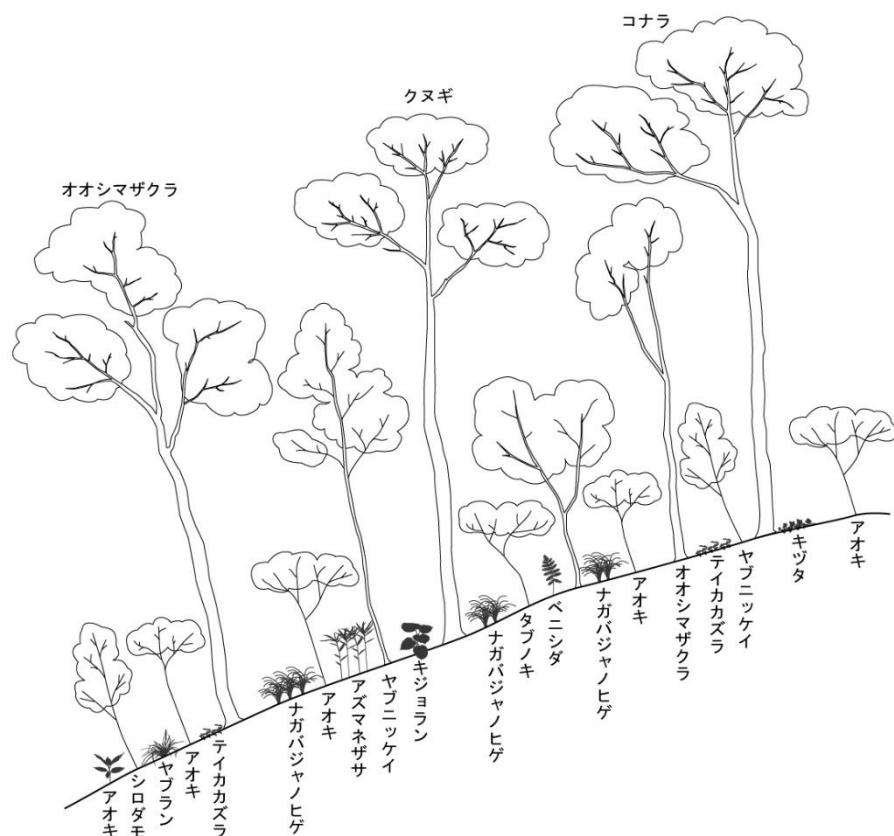


図 5.2-6(2) オニシバリーコナラ群集

### (c) アカメガシワーカラスザンショウ群落

調査範囲内の急傾斜地に広範囲に分布する先駆性の落葉広葉樹林で、占有率は25.74%と最も広く分布した。本来はオニシバリーコナラ群集であった箇所が、ナラ枯れによる影響で優占種が遷移したと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、44cmのカラスザンショウであった。

群落高は4~19m程度であり、高木層にアカメガシワ、カラスザンショウ、ハゼノキ等が優占した。亜高木層は疎らでシロダモ、ヤブニッケイ、ミズキ等が見られた。低木層はアオキ、イヌビワ、キブシ等が見られた。草本層はベニシダ、ヒゴクサ、キチジョウソウ等が見られた。

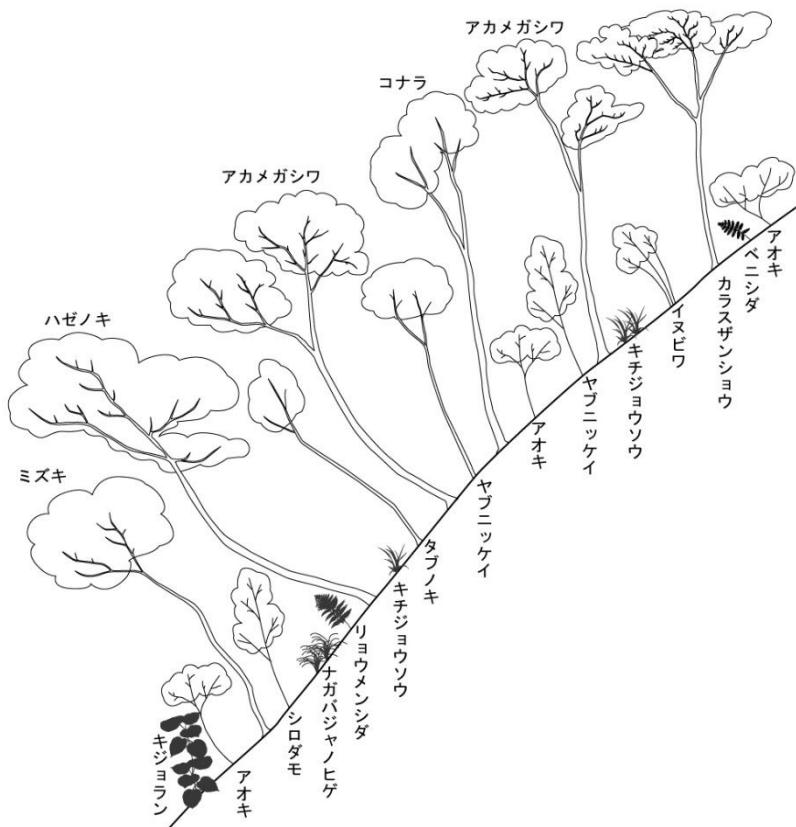


図 5.2-6(3) アカメガシワーカラスザンショウ群落

#### (d) ケヤキ群落 (VII)

主に森戸川源流域、大沢谷川及び阿部倉の急傾斜地及び深い谷に点在する夏緑広葉樹林で、占有率は 2.71% とわずかであった。高木の胸高直径の最大は、40cm のケヤキであった。

群落高は 14~16m 程度であり、高木層にケヤキ、ムクノキ、エノキ等が優占した。亜高木層は疎らでイロハモミジ、ケヤキ、ムクノキ等が見られた。低木層はアオキ、コクサギ、イヌビワ等が見られた。草本層はリョウメンシダ、ジュウモンジシダ、キチジョウソウ等が見られた。

そのほか、植生調査が実施困難な崖地ではイワギボウシ、イタヤカエデ、ケイワタバコなど山地性の種が多く確認された。

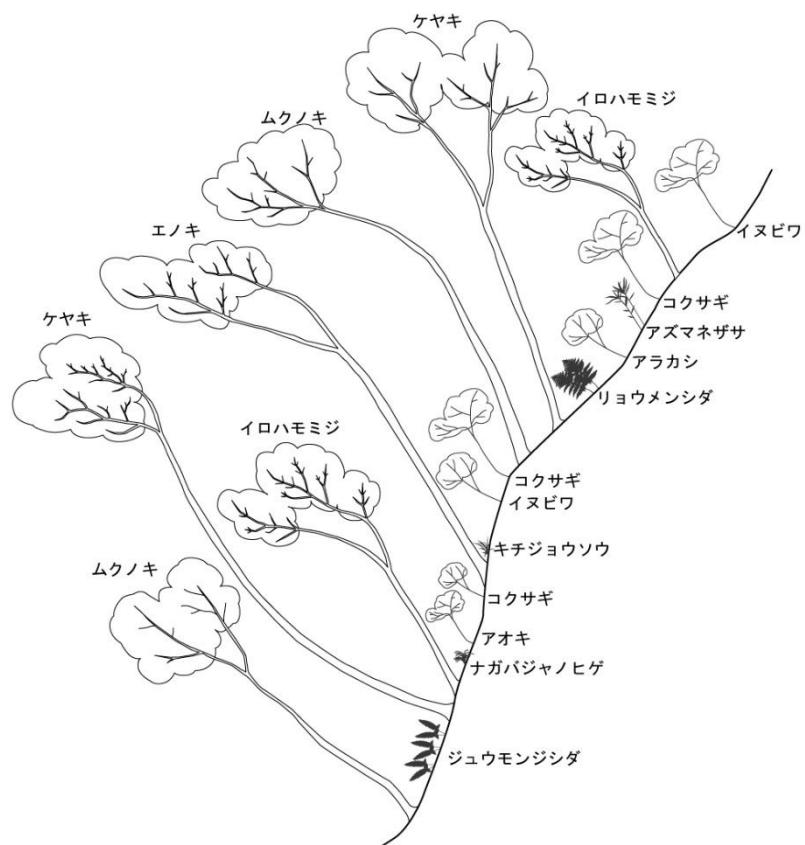


図 5.2-6(4) ケヤキ群落 (VII)

### (e) エノキ群落

主に調査範囲内の北側の急傾斜地に点在して分布する夏緑広葉樹林で、占有率は3.29%とわずかであった。高木の胸高直径の最大は、37cmのエノキであった。

群落高は10~18m程度であり、高木層にエノキ、ムクノキ、コナラ等が優占した。亜高木層は疎らでシロダモ、ヤブニッケイ、エノキ等が見られた。低木層はアオキ、コクサギ、イヌビワ等が優占した。草本層はナガバジャノヒゲ、キチジョウソウ、ティイカカズラ等が疎らに見られた。

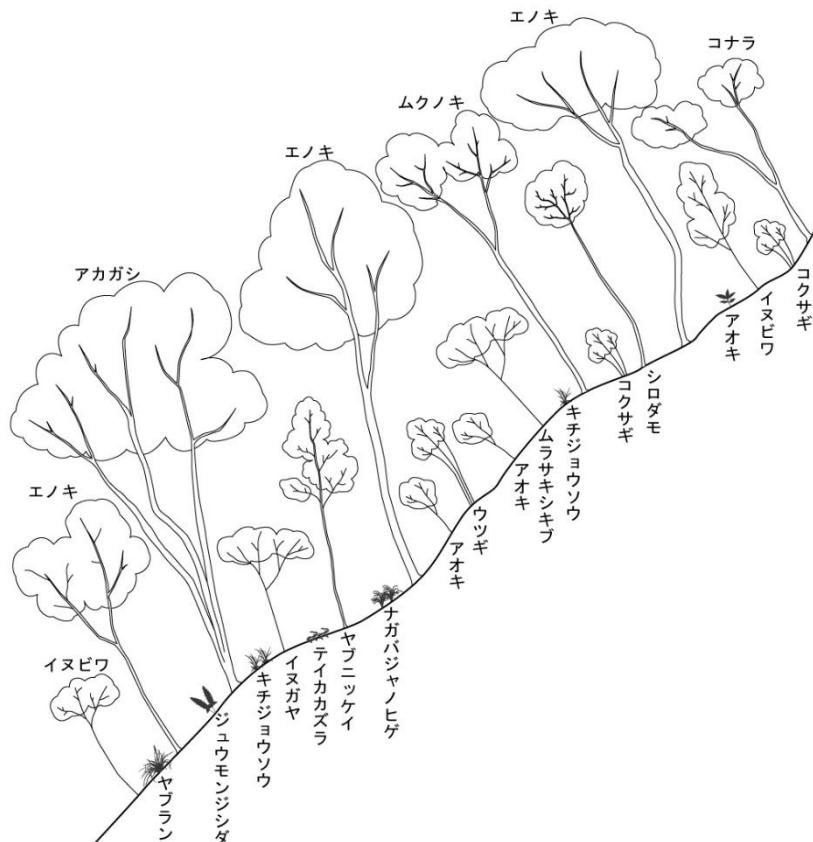


図 5.2-6(5) エノキ群落

(f) アズマネザサーススキ群集

主に調査範囲内の南側に点在して分布する植生で、占有率は 2.00% とわずかであった。以前は放棄畑雜草群落、路傍・空地雜草群落、ススキ群団及び造成地であった環境が遷移したと考えられる。

群落高は 1~6m 程度であり、低木層にアズマネザサが優占した。草本層はウラシマソウ、ヤマグワ、アオキ等が僅かに見られたほか、一部ではアズマネザサとススキが混生する箇所が確認された。

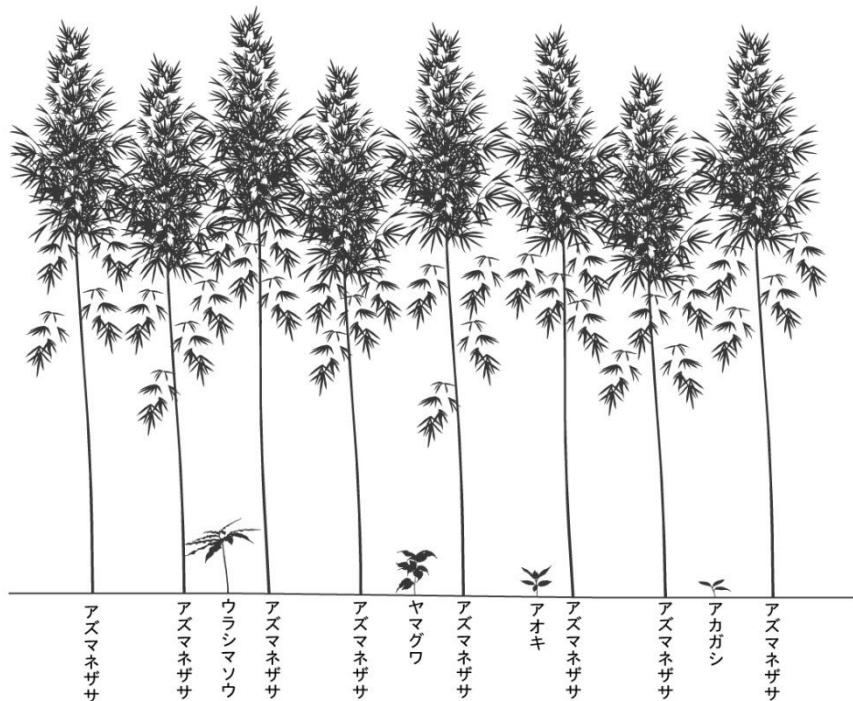


図 5.2-6(6) アズマネザサーススキ群集

(g) スギ・ヒノキ・サワラ植林

主に調査範囲内の谷を中心に点在する常緑針葉樹の植林で、占有率は 7.50% であった。大半はスギの植林であった。

高木の胸高直径の最大は、33cmのヒノキであった。

群落高は15~20m程度であり、高木層にスギ、ヒノキが優占した。亜高木層は疎らでスギ、ムクノキが見られた。低木層はアオキ、ヒサカキ、イヌビワが混生した。草本層はリョウメンシダ優先して繁茂する箇所が多く、そのほかにヤブミョウガ、ナガバジャノヒゲ等が見られた。低木及び草本層は耐陰性の強い種が多く見られた。

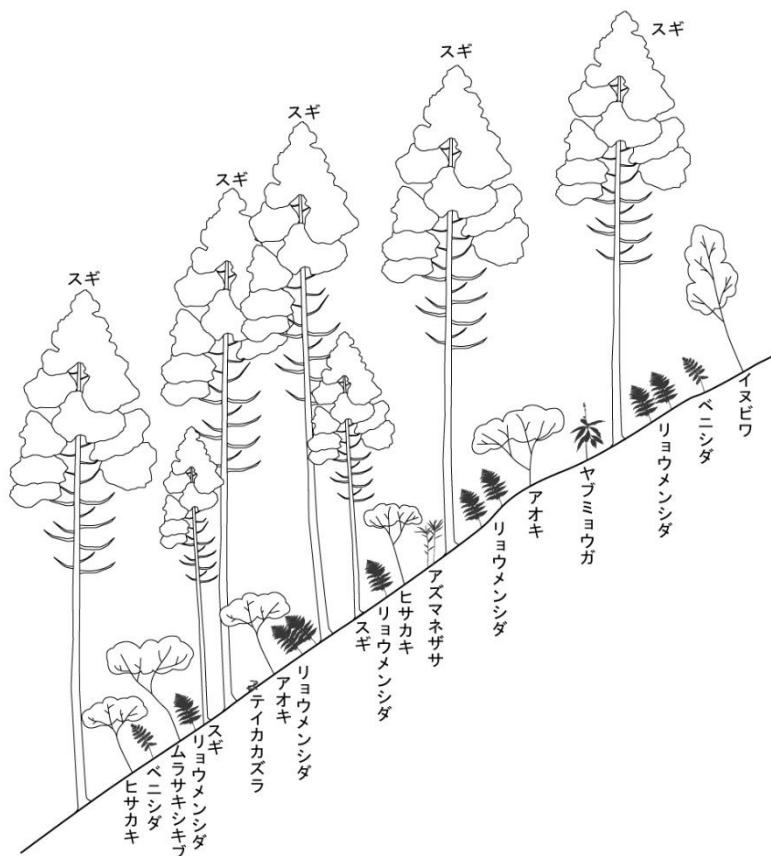


図 5.2-6(7) スギ・ヒノキ・サワラ植林

(h) クロマツ植林

調査範囲内のゴルフ場内のみに点在するクロマツの植林で、占有率は 2.66%とわずかであった。

高木の胸高直径の最大は、44cmのクロマツであった。

群落高は 12~18m程度であり、高木層にクロマツが優占した。亜高木層は疎らでオシマザクラ、ミズキが見られた。低木層はヤマグワ、イヌビワ、トベラが混生した。草本層はティカカズラ、キヅタ等が多く見られた。

本植生はゴルフ場内に存在するため、クロマツのほかにもカイヅカイブキ、ウバメガシ、キョウチクトウといった樹木が植栽され、林床は定期的に管理されていた。

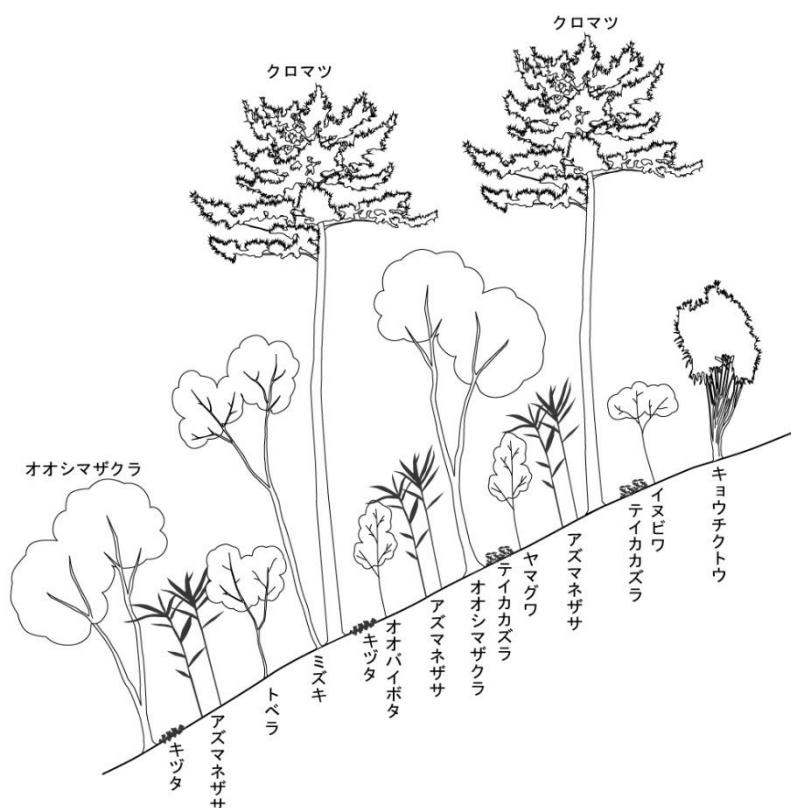


図 5.2-6(8) クロマツ植林

### (i) その他植林（常緑広葉樹）

主に調査範囲内の埋立地及び高速道路の法面に見られる広葉樹の植林で、占有率は3.79%であった。

高木の胸高直径の最大は、20cmのスダジイであった。

群落高は8~12m程度であり、高木層にマテバシイ、スダジイが優占した。亜高木層はアラカシ、スダジイ、カキノキ等が見られた。低木層はわずかにアオキ、ケヤキ、マサキ等が見られた。草本層はスゲ属の一種、アオキ、キヅタ等が見られた。低木及び草本層は耐陰性の強い種が多く見られた。

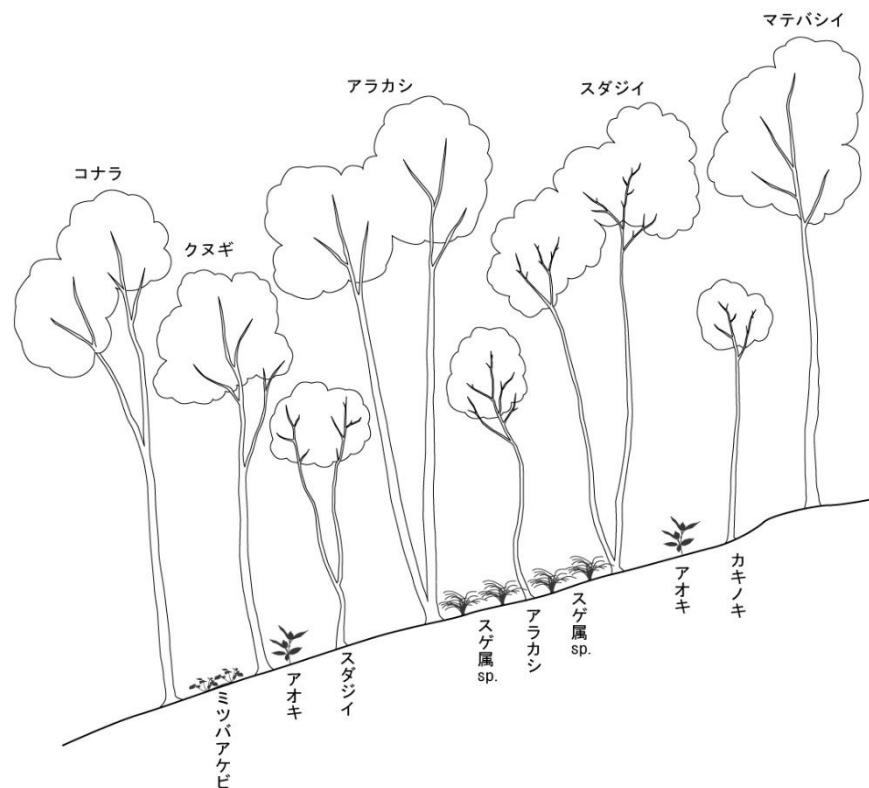


図 5.2-6(9) その他植林（落葉広葉樹）

(j) オオシマザクラ植林

主に調査範囲内の尾根部から斜面上部を中心に点在するオオシマザクラの植林で、占有率は14.30%であった。シイ・カシ二次林と同様に萌芽再生したものが多く、以前は薪炭林として利用されていたと考えられる。

高木の胸高直径の最大は、70cm オオシマザクラであった。

群落高は6~15m程度であり、高木層にオオシマザクラが優占したほか、タブノキ、スダジイ等も見られた。亜高木層はシロダモ、ヤブニッケイ、マテバシイ等が見られた。低木層はヤブニッケイ、イヌビワ、アオキが混生した。草本層はヤブラン、ナガバジヤノヒゲ、アオキ等が見られた。

そのほか、管理放棄によりアズマネザサの繁茂する箇所が多く見られた。

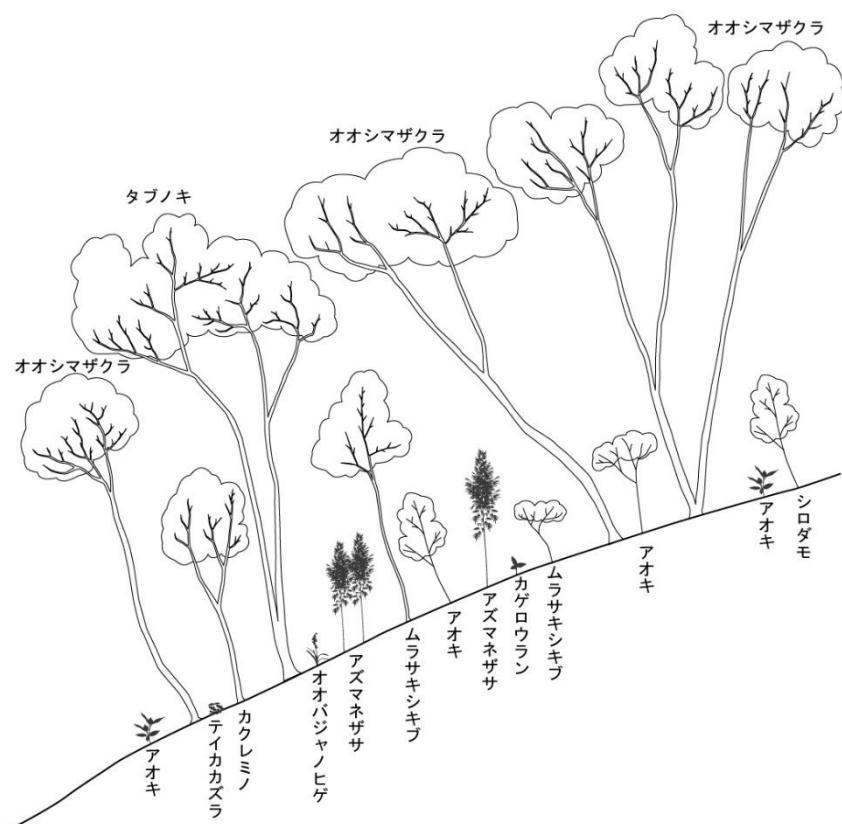


図 5.2-6(10) オオシマザクラ植林

### (k) 竹林

主に森戸川源流域以南の丘陵地の斜面下部から中部にかけて点在する竹林で、占有率は 4.66% であった。管理されなくなった薪炭林等の樹林地及び耕作地への侵入が目立った。

群落高は 9~16m 程度であり、高木層にモウソウチク、マダケ、ハチクが優占したが、大半はモウソウチクが優占する竹林であった。亜高木層はほとんど見られなかった。低木層は疎らでアオキ、アズマネザサが見られた。草本層は場所によってはドクダミ、キチジョウソウ等が繁茂する箇所が見られたが、疎らな環境が大半であった。

なお、秋季の植物相調査の際にアキザキヤツシロラン及びクロヤツシロランが生育する腐植や落葉層に富んだ竹林も見られた。

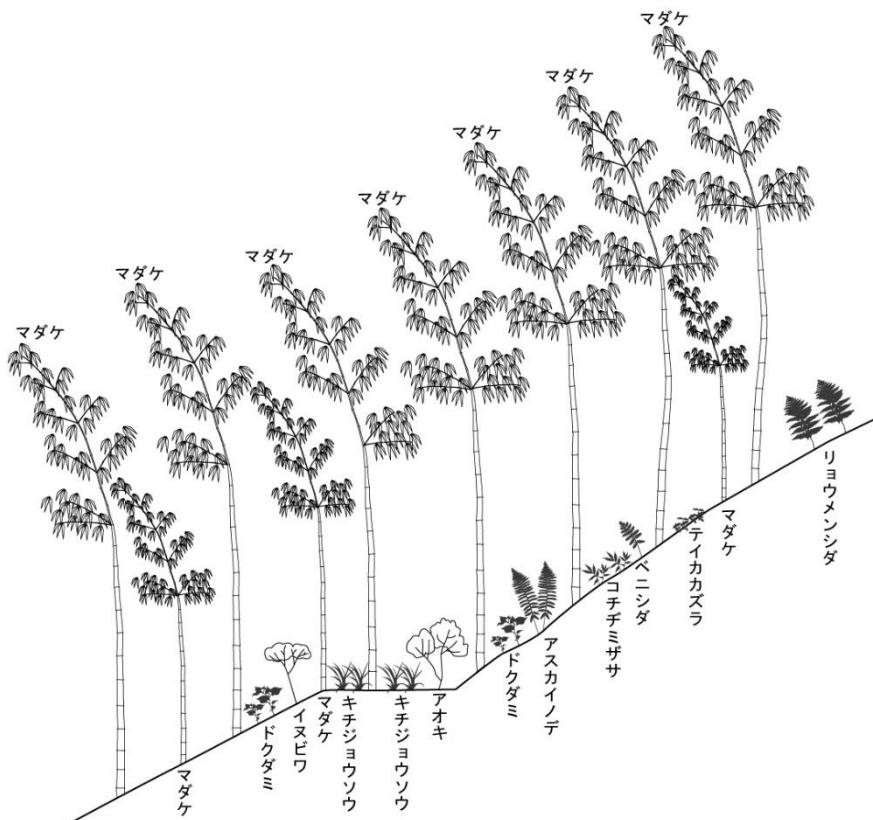


図 5.2-6(11) 竹林

### (1) ゴルフ場・芝地

調査範囲内のゴルフ場においてコースとして利用されている芝地で、占有率は 8.11% であった。

定期的に管理されているため、芝地として利用されている種以外は見られなかった。なお、利用されている芝については、種の特定には至らなかった。

(m) 路傍・空地雑草群落

主に調査範囲内の埋立地及び造成地に見られる草地で、占有率は 0.78% とわずかであった。荒れた環境のため、在来種よりも外来種の占める割合が高かった。

群落高は 0.05~1.5m 程度であり、アレチハナガサ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ等が優占した。

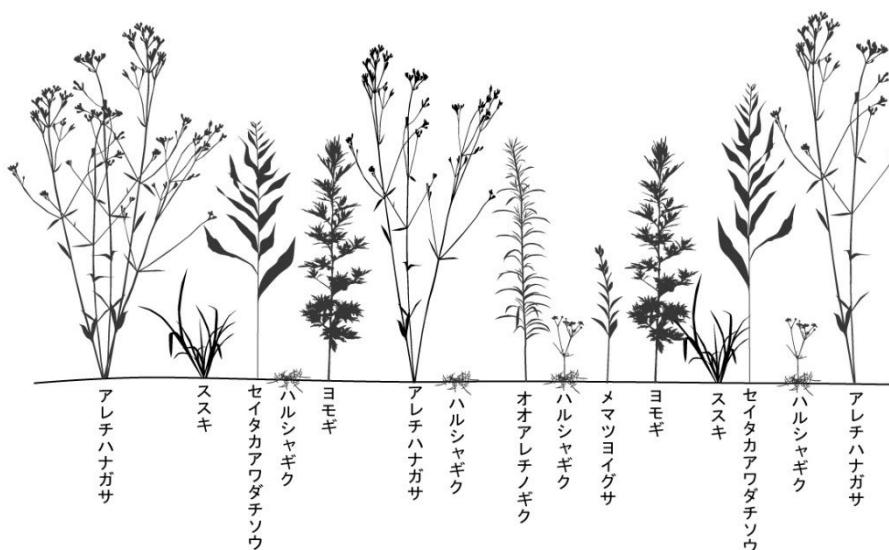


図 5.2-6(12) 路傍・空地雑草群落

(n) 果樹園

以前は水田として利用していた谷戸を再利用した果樹園で、占有率は 0.14% とわずかであった。

群落高は 1~6m 程度であり、低木層にウメ、カキノキが優占した。草本層はスゲ属の一種、ヘビイチゴ、キツネノマゴ等の背丈の低い種が混生した。

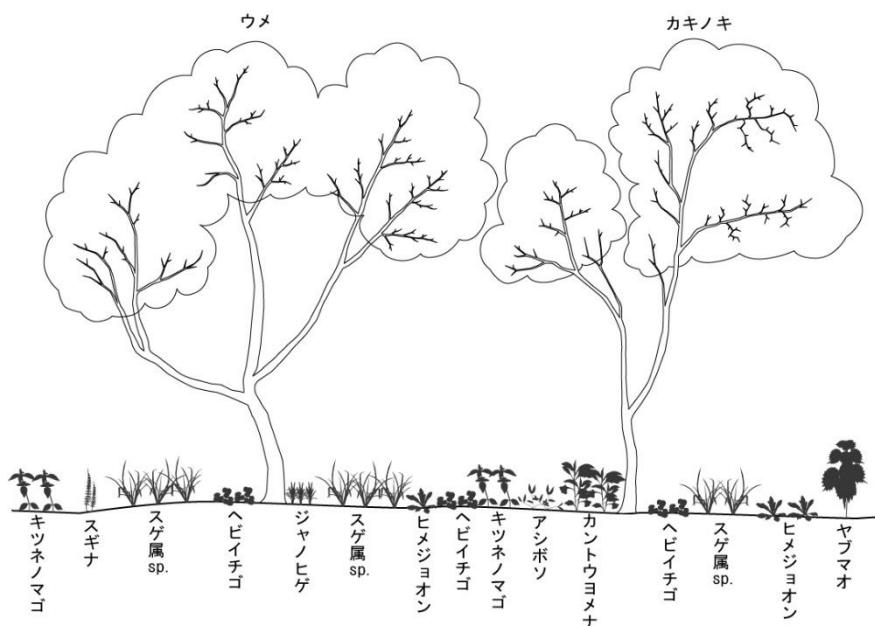


図 5.2-6(13) 果樹園

(o) 畑雜草群落

畑として利用されており、占有率は 1.70% とわずかであった。作物のほかにメヒシバ、ヒメイヌビエ、スペリヒユ等の明るく乾いた環境を好む種が多く確認された。

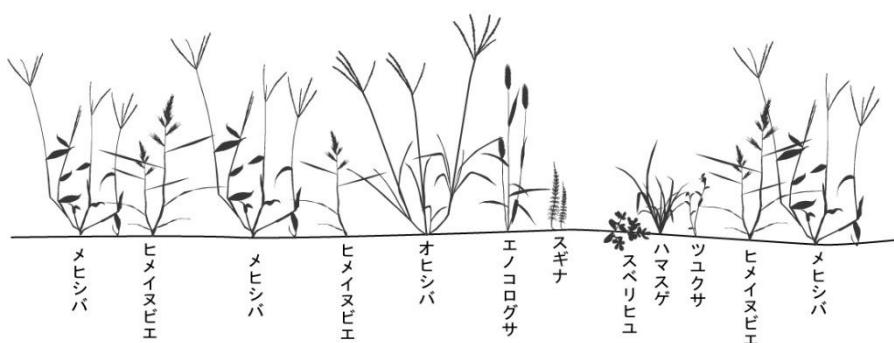


図 5.2-6(14) 畑雜草群落

(p) 水田雑草群落

水田として利用されており、占有率は 0.20% とわずかであった。イネのほかにアゼナ、イボクサ、キカシグサ等の明るく湿った環境を好む種が確認された。



図 5.2-6(15) 水田雑草群落

(q) 市街地等

ごみ焼却施設、ソーラー発電施設及び高速道路等の緑の少ない人工的な環境で、調査範囲内での占有率は 6.95% であった。植生はほとんど見られなかった。

(r) 緑の多い住宅地

下山川及び森戸川周辺に見られる住宅地で、調査範囲内での占有率は 5.60% であった。人工的な環境であるが、市街地に比べ植栽や緑地が多い環境であった。

#### ウ 潜在自然植生

調査範囲の潜在自然植生は、図 5.2-7(1)～(2)に示すとおりである。また、潜在自然植生の面積は表 5.2-37 に示すとおりである。

「神奈川県潜在自然植生図」(神奈川県教育委員会、昭和 50 年)、「神奈川県の潜在自然植生」(神奈川県教育委員会、昭和 56 年) 及び現地調査によって調査範囲の潜在植生は、ヤブツバキクラス域に属する 4 区分に分類されると推測された。

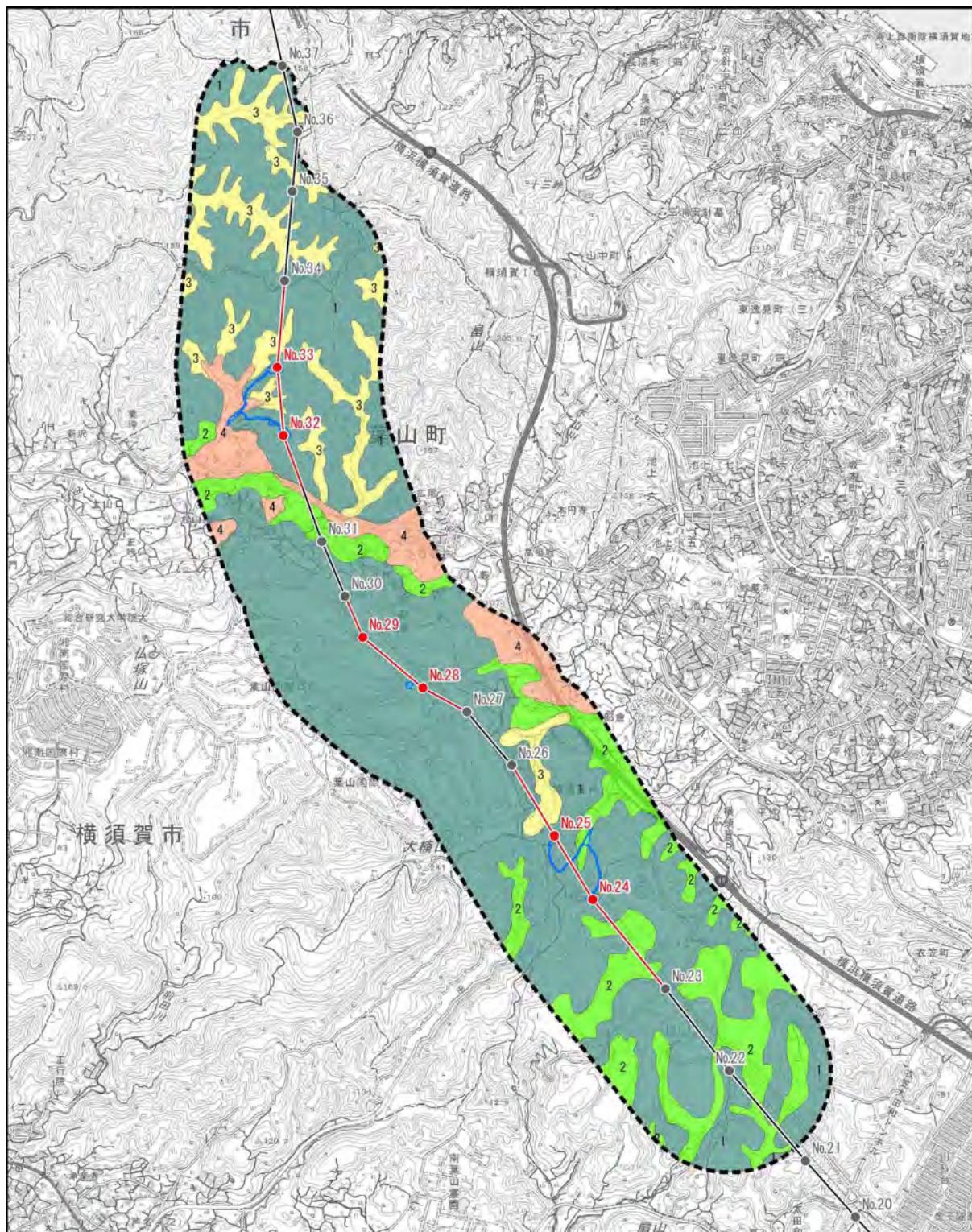
調査範囲内の潜在自然植生の分布は、山地から丘陵地の尾根、斜面の大部分がヤブコウジースダジイ群集、山地から丘陵地の斜面下部の土壤が厚く堆積する箇所ではイノデータブ群集、山地の渓谷沿いではイロハモミジーケヤキ群集、低地の谷戸及び山川周辺ではハンノキ群落が成立すると考えられる。表層土が失われているゴルフ場、埋め立て地等については、客土により本来の立地を復元できることから、上記の潜在自然植生が成立すると考えられる。

占有面積では、最も占有しているのは「ヤブコウジースダジイ群集」であり、全体の 7 割程度を占めていた。次いで「イノデータブ群集」が 14.76%、「イロハモミジーケヤキ群集」が 8.39%、「ハンノキ群落」が 6.32% であった。実施区域内では、「ヤブコウジースダジイ群集」が最も大きい面積であったが、全体と比較すると 0.34% 程度の面積であった。

表 5.2-37 潜在自然植生の占有面積

No.	潜在自然植生の区分	実施区域				全体	
		内		外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
1	ヤブコウジースダジイ群集	2.07	0.34	424.25	70.18	426.33	70.52
2	イノデータブ群集	0.15	0.03	89.10	14.74	89.25	14.76
3	イロハモミジーケヤキ群集	0	-	50.73	8.39	50.73	8.39
4	ハンノキ群落	0.51	0.08	37.72	6.24	38.23	6.32
	合計	2.74	0.45	601.80	99.55	604.54	100.00

注) 表中の数値は小数点第三位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 実施区域の工事用地
- 植物の調査範囲

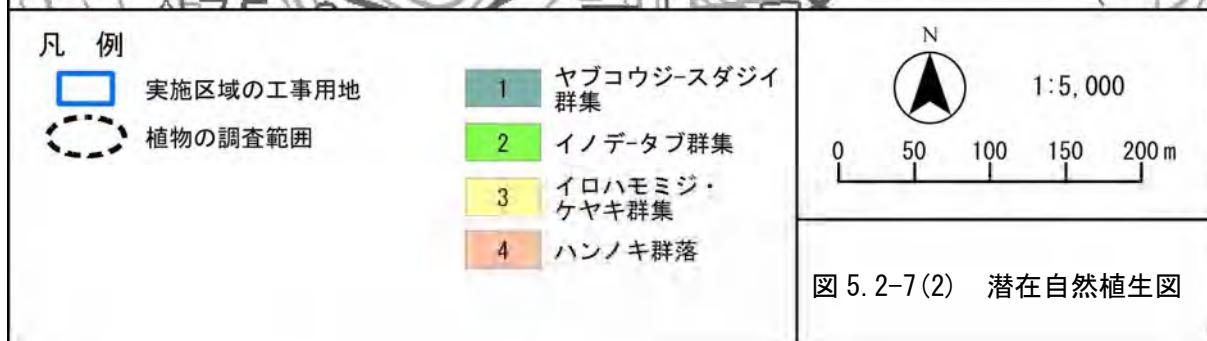
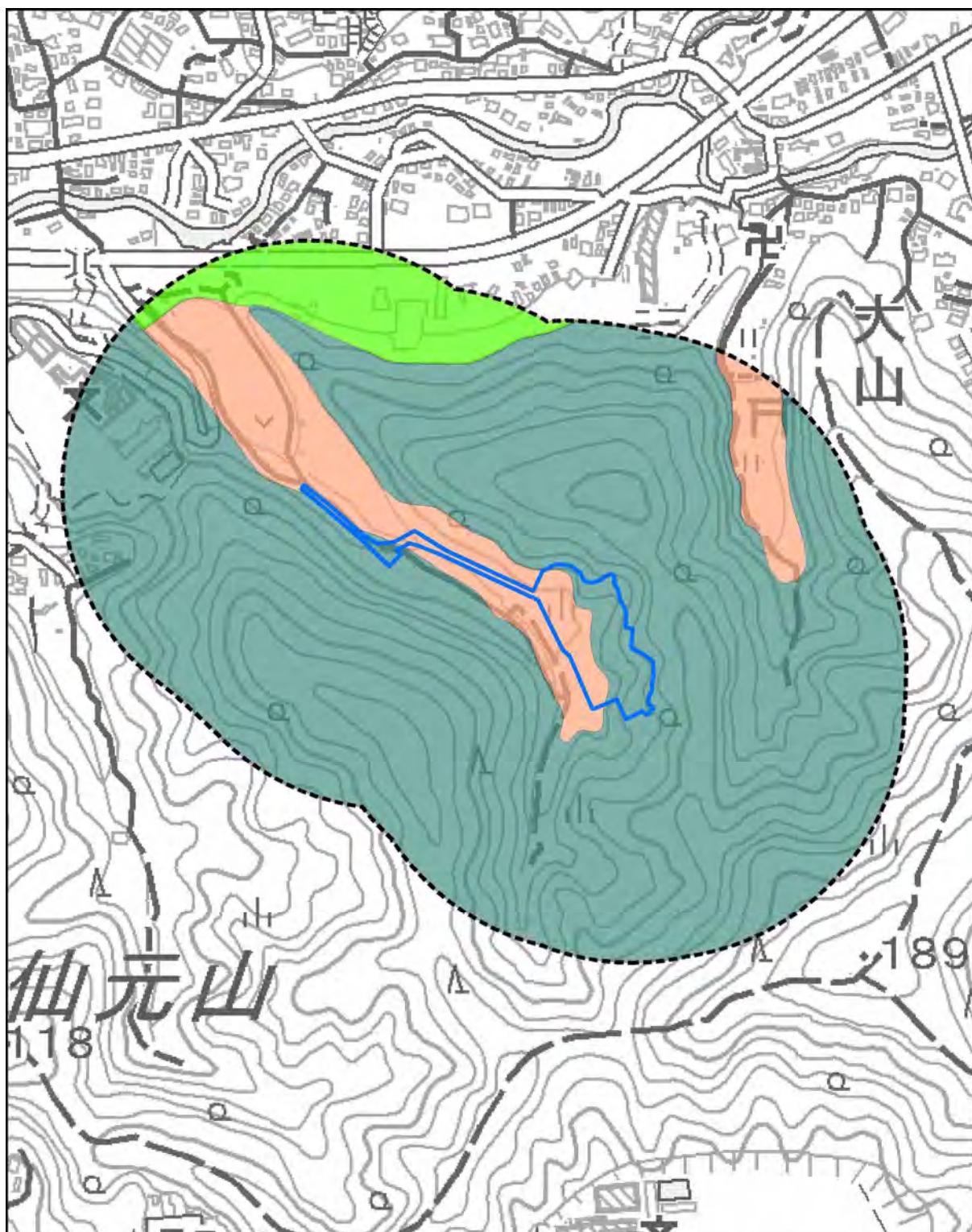
- |   |              |
|---|--------------|
| 1 | ヤブコウジースダジイ群集 |
| 2 | イノデ-タブ群集     |
| 3 | イロハモミジ・ケヤキ群集 |
| 4 | ハンノキ群落       |



1:30,000

0 0.3 0.6 0.9 1.2 km

図 5.2-7(1) 潜在自然植生図



### (3) 重要な植物種及び植物群落

#### ① 調査事項

重要な植物種及び植物群落の確認地点、生育状況等とした。

#### ② 調査方法

「(1) 植物相」及び「(2) 植生」の調査結果を整理及び解析するとともに、現地調査により確認地点、個体数、生育密度、生育状況、生育環境との関わり等を明らかにした。

#### ③ 調査範囲及び地点

調査範囲は、「(1) 植物相」及び「(2) 植生」と同様（図 5.2-3(1)～(2) 参照）の範囲とした。

#### ④ 調査時期、期間又は時間帯

調査時期及び頻度は、「(1) 植物相」及び「(2) 植生」と同様（表 5.2-27(1)～(2) 及び表 5.2-32(1)～(2) 参照）の期日で実施した。

#### ⑤ 調査結果

##### ア 重要な植物種

重要な植物種の選定は表 5.2-38 に示す基準により行った。現地調査により確認された重要な植物種は表 5.2-39 に、確認状況は表 5.2-40(1)～(5) に、確認位置は図 5.2-8(1)～(3) に示すとおりである。また、実施区域の工事用地に近い位置で確認された重要な植物種は、図 5.2-9(1)～(2) の拡大図に示した。

現地調査の結果、12 科 20 種の重要種が確認された。確認された重要な植物種は、いずれも実施区域外であり、実施区域から 5m 以内の近傍でも確認されなかったが、比較的近い位置に生育している個体が複数確認された。

なお、イブキ、イヌカタヒバ、シラン、スルガラン、ウバメガシの 5 種については、逸出した種であるため重要種から除外した。